

がん医療にイノベーションを起こせ！ 立ち止まるな日本！！

第5回 創立5周年祈念
熊本地震復興並びに九州北部、千葉県災害被災地支援

がん撲滅サミット®

The 5th Cancer Eradication Summit

令和元年**11月17日(日)**

<https://cancer-zero.com>
参加無料 (HPご覧ください)

開場 12:30

開演 13:00

会場

東京ビッグサイト
国際会議場

主催 | 第5回がん撲滅サミット実行委員会

共催 | アライアンス・フォーラム財団／公益財団法人 がん集学的治療研究財団
公益財団法人 広島がんセミナー

協賛 | 東レ株式会社、日本航空株式会社、オリンパス株式会社、ダイダン株式会社、三井住友海上火災保険株式会社
小野薬品工業株式会社、株式会社ツムラ、グラクソ・スミスクライン株式会社、TOTO株式会社
ALSOK総合警備保障株式会社、株式会社エフ・アール・シー・ジャパン、未来トラスト株式会社
ジャパンエステート株式会社、株式会社パシフィックウェーブ、TH総合法律事務所
株式会社オキ・コーポレーション、株式会社重岡、岡山県極真空手道連盟 ほかの皆様 (順不同)

後援 | 厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、総務省、農林水産省
AMED国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、東京都、公益社団法人 日本医師会
公益財団法人 がん研究会有明病院、公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会
一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会、一般社団法人 生命保険協会
一般社団法人 日本損害保険協会、一般社団法人 全国警備業協会、一般社団法人 情報サービス産業協会
一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN
読売新聞社 (順不同)

当初、大会長としてご指導をいただいていた北島政樹先生が2019年5月21日にご逝去されました。謹んで哀悼の意を捧げ、ここに生前にお書きいただいた大会長ご挨拶を掲載させていただきます。なお、お役職はご生前のものです。



永世大会長ご挨拶

故・北島 政樹

公益財団法人 がん集学的治療研究財団 会長
学校法人 国際医療福祉大学 副理事長
学校法人 国際医療福祉大学 名誉学長

謹啓 皆様におかれましては益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。

第5回がん撲滅サミット大会長として、一言ご挨拶させていただきます。

おかげ様で昨年の大会は佐治重豊・前大会長のリーダーシップによって北は北海道から南は沖縄までの全国各地の皆様をはじめ、中国、韓国、台湾など内外から約1,100人の皆様をお迎えし、大盛況のうちに終了することができました。そして今年開催するがん撲滅サミットは創立5周年を記念する、まさに画期的な大会にするべく最前を尽くして努力をしておりますので、ご支援・ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

さて、約4000年近く続いてきた人類とがんとの闘いは、2018年10月にPD-1チェックポイント阻害剤によって本庶佑先生がノーベル医学・生理学賞を授与され、一気に免疫療法が世界的な注目を集めたことにより、いよいよがん撲滅に向けて最終局面に入ったと言っても過言ではありません。また閣議決定で第3期がん対策推進基本計画で新たに科学的根拠を有する免疫療法の充実が盛り込まれ、国のがん対策にも大きな影響を与えました。さらにゲノム医療やAIの導入、光免疫療法、ウイルス療法、漢方医療を中心とする統合医療のような新しい治療法の登場は今後、診断法の発達と相俟って体に負担のない低侵襲及び個別化医療の幕開けを告げるものといえるでしょう。これによってがんとの闘いは克服から撲滅に向かってさらなる前進を遂げることになるかと期待されます。

ここで大事なことは、治療の手段が無いと言われた患者やご家族の皆様の、治療の継続を望む気持ちを無視したり、踏みこむ行為は現に慎まなくてはならないと思っております。

福澤諭吉の「贈医」と題する七言絶句があり正に医師と患者の関係を示しております。

『医学というもの自然と人間との限りない知恵くらべの記録のようなものである。医師よ、自然の家に過ぎないというてくれるな、離婁（視力の確かな仙人）のようなすばらしい眼力と麻姑（古代中国の仙女）のような行きとどいた手をもってあらゆる手段を尽くしてこそ初めてそこに医業の真髄が生まれる。すなわち医師は常に勉強に励み、時に天に反逆してでも患者を長生きさせ、治療する努力をすべきである』

私はいつもこの言葉を心に留めております。

そういう意味でも医療者の皆様も患者の生きる権利を尊重し、謙虚かつ丁寧に患者や家族の皆様と向き合うべきでありましょう。そのためには専門外の治療法に対しても頭から否定するのではなく、少しでも患者の皆様のためになる治療はないものかと世界の動向に目配り、気配りをする気持ちが大切なことは言うまでもありません。

そこで創立5周年を記念する今大会は、がん患者の皆様にご希望と期待の光をお持ち帰りいただける歴史的ながん撲滅サミットにして参る所存です。

最後に、今大会からアライアンス・フォーラム財団と私共で、『がん撲滅日米共同宣言2019』を発表させていただくことになりました。これは民間主導によって両国が共にがん撲滅の実現に向けて戦略的に動き出すことにより、欧米、アジア各国にもがん撲滅の輪を拡げていこうというものです。日本から始まったがん撲滅への挑戦が今、世界に向かって広がろうとしております。

大事なことは、がんという大いなる人類の難問に対して、政府、経済界、患者、ご家族、一般市民、そして医療者が心をつなげてオールジャパンで向き合う環境を作り上げることです。それが「がん撲滅サミット」を旗揚げさせて頂きました最大の目的です。どうぞ私共の趣旨をご理解いただき、ご協力、ご支援のほどを宜しくお願い申し上げます。

がん患者がそこにいる以上、我々は現状に満足して立ち止まることは許されません。「がん撲滅」という人類のニューフロンティアに対し、皆様と共に前進する大会とさせていただきます。是非、当日、会場でお会い致しましょう。

謹白

第5回がん撲滅サミット提唱者 歓迎のご挨拶



中見 利男

第5回がん撲滅サミット代表顧問、提唱者
作家・ジャーナリスト

本日は創立5周年祈念～第5回がん撲滅サミットに皆様、ようこそご来場くださいました。

2013年9月に『オールジャパンでがん撲滅を！』という呼びかけを開始いたしました。とりわけ小泉政権の元内閣総理大臣補佐官 牧野徹先生にご相談をしたところ、「若い世代にとって、がん撲滅は大事なことだ。ぜひ、やりましょう」と力強い激励をいただくことができました。以来、政府、経団連などの経済界、医療界の皆様にお声かけを続けて参りました。そして第1回大会での『攻めなければ負けしかないなか、(がん)撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感じます』という高円宮妃殿下のお言葉を胸にコツコツとオールジャパンの構築に向けて前進した結果、『がん医療にイノベーションを起こす』という原丈人大会長の強力なリーダーシップの下、本日の第5回がん撲滅サミットを迎えることができました。

当初の大会長でいらっしゃった故・北島政樹先生の「医師は時として天に逆らっても患者を治療しなければならぬ」という貴重なお言葉、第1回大会よりご講演をいただいている内閣総理大臣補佐官 和泉洋人先生、そしてがん撲滅サミット2016終了時に現・特別顧問 二川一男先生から「中見さん！いよいよベンジだ！」との励ましをいただいたこと。がん患者の方々から寄せられた「第5回がん撲滅サミット頑張れ！」というご声援など、皆様方の温かいご支援のお力で幾多もの危機を乗り越えてここまで来られました。そして私は今、皆さんに改めて呼びかけます。

さまざまな議論があるのはわかっています。しかし、それでも小児がんの子どもたちや膵臓がん膠芽腫などの難治性、希少性がんなどで苦しむ人々のため、将来の人々のために勇気をもって、2030年を『がん撲滅』元年にするという高いハードルをそろそろ我々自身に課しませんか。

そのために人類の英知を結集して2025年には持ち運びのできる副作用のない安価ながん予防薬を開発しましょう。ビッグデータからメガデータにシフトチェンジして人類とAIの総力戦を今から開始するのです。

そして1日でも早くオールジャパンの力で人類をがんから解放しようではありませんか。

『難しいからやろうとしないのではない。やろうとしないから、難しくなるのだ』

哲学者セネカは、すでにローマ帝国時代にこう看破しています。21世紀の今、彼ならこう言うでしょう。

『不可能だから出来ないのではない。やろうとしないから不可能なのだ』と。

今こそ力を合わせて前進を開始しましょう。

本日はどうぞごゆっくりお過ごしください。

がん撲滅サミット

創立5周年祈念～第5回がん撲滅サミット

PROGRAM

12:30 開場 東京ビッグサイト 国際会議場

13:00～13:30 北島政樹永世大会長への黙祷、来賓ご挨拶並びにご紹介

がん撲滅への戦略講演

13:30～13:50 がん撲滅サミット5周年祈念
大会長講演「がん撲滅に向けた日米連携最前線」
内閣府参与、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原 丈人 先生

13:50～13:55 がん撲滅サミット5周年祈念 特別メッセージ 東京都知事 小池 百合子 先生

13:55～14:10 「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦 2019」
内閣総理大臣補佐官 内閣官房健康・医療戦略室 室長 和泉 洋人 先生

14:10～14:25 「がん対策加速化への道 2019」
厚生労働省 医務技監 鈴木 康裕 先生

14:25～14:40 第5回がん撲滅サミット文化勲章受賞記念講演
「患者のための免疫療法ー世界最前線」
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授 坂口 志文 先生

14:40～14:50 〈休憩〉

がん撲滅への戦術講演

14:50～15:05 「このまま死んでる場合じゃない！ 令和元年最新報告」
国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院客員研究員、岐阜大学抗酸化研究室 岡田 直美 先生

15:05～15:20 「実用化に向けて動き出したウイルス療法最前線」
東京大学医科学研究所 教授 藤堂 具紀 先生

15:20～15:35 「がん消滅最前線！ AI ホスピタルからネオアンチゲンまで」
公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタル ディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授 中村 祐輔 先生

15:35～15:50 休憩(会場設営準備)

15:50～18:00

がん撲滅サミット公開セカンドオピニオン®

～患者に寄り添うがん医療を確立せよ！立ち止まるな日本！！～

司会：中見利男氏（第5回がん撲滅サミット代表顧問、提唱者）作家・ジャーナリスト

- 瀬戸泰之先生（胃・食道がん） 東京大学 医学部附属病院 病院長
- 藤堂具紀先生（ウイルス療法） 東京大学 医科学研究所 教授
- 前田耕太郎先生（大腸がん、直腸がん） 藤田医科大学病院 国際医療センター センター長・教授
- 井本滋先生（乳がん） 杏林大学 医学部附属病院乳腺外科 教授、一般社団法人 日本乳癌学会 理事長
- 佐野圭二先生（肝臓がん、すい臓がん、胆管がん） 帝京大学 医学部外科学講座 教授
- 米瀬淳二先生（膀胱がん・腎臓がん・前立腺がん・精巣がん） 公益財団法人 がん研究会有明病院 泌尿器科部長、院長補佐
- 副島研造先生（呼吸器系がん） 慶應義塾大学病院臨床研究推進センター 副センター長、トランスレーショナルリサーチ部門長・教授
- 上園保仁先生（統合医療・漢方によるがん治療） 国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長
- 鎌田正先生（重粒子線治療） 神奈川県立がんセンター 重粒子線治療施設「i-ROCK」センター長
国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
- 清松知充先生（大腸腹膜播種） 国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 下部消化管外科 診療科長
- 岡田直美先生（重粒子線及び集学的治療） 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 客員研究員、岐阜大学 抗酸化研究室
- 古賀良彦先生（食事と香りのブレインヘルス） 杏林大学 名誉教授
- 大澤岳史先生（緩和ケア・在宅医療） 帝京大学医学部 緩和医療学講座 緩和医療専門医・講師

<順不同>

17:50 閉会の辞 **がん撲滅サミットとアライアンス・フォーラム財団による
「がん撲滅日米共同宣言 2019」**

アフターケアプレゼンツ

- 中村祐輔先生（ネオアンチゲンなどの免疫療法、ゲノム医療、AI ホスピタル） 公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究 センター所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタル ディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授
- 森安史典先生（ナノナイフ治療） 医療法人順和会 山王病院 がん局所療法センター センター長
東京医科大学 名誉教授、国際医療福祉大学 教授
- サプライズゲスト

がん撲滅サミット

高円宮妃殿下お言葉

本日は第1回がん撲滅サミットの開催が盛大に開催され、皆様とご一緒できますことを大変うれしく思います。

日本では2人に1人ががんにかかり、3人に1人ががんで亡くなると言われており、あらゆる病気の中で最も死亡率が高いとうかがっております。1981年より日本人の死因第1位を占めており、国民病ともいえるかもしれません。がんは全身のあらゆる部位で発症いたしますし、初期には自覚症状がないため、今でも発見されたときにはすでに進行していて、治療が遅れるケースが多くあります。しかし、早期発見により、完全に治療、治癒することも可能な病です。

医学とがんの闘いは実に長い歴史を持っており、がんの最初の記録は紀元前1500年ごろの古代エジプトの医学書にあります。そして紀元前1400年ごろ、古代ギリシャの医聖ヒポクラテスががんにかき(かに)を意味するカルキノスという名前をあてがえました。その数百年後に医学論を書いた学者のアウルス・コリネリウス・ケルススがカルキノスをキャンサーとラテン語に訳したのです。英語では今でもがんのことをキャンサーと呼びますが、発がん物質を意味するカルシノシンはヒポクラテスのカルキノスが語源です。

これだけ長く闘っているのですから、がんは医学にとって永遠のテーマであり、人類は終わりなき闘いを繰り広げていく運命にあるのかもしれません。進化医学の出番も増えるのかもしれません。

いずれにしろ何事においても、攻めなければ負けしかない中、撲滅を目指すぐらいの意気込みが必須と感ずります。お身内にがん患者がいらっしゃる作家でジャーナリストの中見利男氏の「オールジャパンでがん撲滅に立ち上がろう」という呼びかけに、医学医療のみならずあらゆる分野の方が賛同されたことによって、ここに新たな挑戦が始まるのを心強く思っております。同じ志を持った多くの人間が同じ方向に動けば、大きなエネルギーがうまれます。

かかげておられる目標の中でも、特にがん最先端医療において個々の患者、治療へ直結する医療のベストミックスを早急につくりあげていくことは重要であり、医師力を増進するのは当然として、患者力の向上を目指すのは実に意義深いことと考えます。

がんに関する先端医療や名医に関する情報を発信することや、患者主体の治療が出来る社会を再構築すること、患者や家族が的確な決断の出来る医療社会を再構築することなど、患者とその家族の立場に立って考えるのは日本の医療の本質ではないでしょうか。

インターネットを駆使したシステムや遠隔医療、遠隔治療などを含む医療は、日本のみならず医療の十分ではない国や地域に希望の光となることでしょう。その昔、医学においては視野を広く持つことが普通でしたが、研究がめざましく進み、医学が進歩した今日では分野ごとに孤立してしまっています。人間は社会的な動物であり、優れたコミュニケーション能力を有していますので、新しい時代の医療には皆がアクセスできる引き出しの多い総合的に意見交換が速やかにできる環境が整備されることを期待しております。

本日のがん撲滅サミットが学術的に実りと発展性のある大会となりますよう、またがんの撲滅、及びがん偏見の撲滅に一日でも早くつながりますよう心より願って開会式に向ける言葉と致します。

(2015年6月9日開催の第1回がん撲滅サミットにご来臨を賜りました)

第5回がん撲滅サミット開会式 ご来賓ご紹介

内閣総理大臣 **安倍 晋三 様**
(代理 内閣総理大臣補佐官 和泉 洋人 様)

厚生労働大臣 **加藤 勝信 様**
(代理 厚生労働省医務技監 鈴木 康裕 様)

公益社団法人 日本医師会 会長、第68代世界医師会 会長 **横倉 義武 様**

第5回がん撲滅サミット 特別顧問
元内閣官房政策参与 元厚生労働省 事務次官 **二川 一男 様**

文化勲章受章者
大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授 **坂口 志文 様**

独立行政法人 医薬品医療機器総合機構 PMDA 名誉理事長 **近藤 達也 様**

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議委員会 副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役会長 **畑中 好彦 様**

学校法人 慈恵大学 理事長 **栗原 敏 様**

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 **國土 典宏 様**

東京大学 医学部附属病院 病院長 **瀬戸 泰之 様**

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長
山形大学医学部 参与 **嘉山 孝正 様**

公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長 **山口 俊晴 様**

株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 **清水 美博 様**

第5回がん撲滅サミット 参与
福島県立医科大学医学部 放射線腫瘍学講座 主任教授 **鈴木 義行 様**

第5回がん撲滅サミット 大会長
内閣府参与、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 **原 丈人 様**

〈順不同〉

がん撲滅サミット

大会長 ご挨拶



原 丈人

第5回がん撲滅サミット大会長
内閣府参与
米合衆国公益法人 アライアンス・フォーラム財団 会長
デフタ パートナーズ グループ会長
大阪大学医学部大学院医学研究科 招聘教授

おかげで様で本年も第5回がん撲滅サミットを開催することができ、ありがとうございます。今年は大切な報告事項があります。

10月29日サンフランシスコで「がん撲滅日米共同宣言」が日本政府と国連経済社会理事会の特別協議資格を有する米合衆国アライアンス・フォーラム財団が主催する第7回ワールド・アライアンス・フォーラムで、がん撲滅サミット提唱者 中見利男氏やシカゴ大学教授マーク・ラテイン氏らと共に執り行われ、世界に向けての第一歩を踏み出すことが出来ました。

「すべての国民が人生の途中で、がんや大病を患っても、大事故にあっても健康を回復し、寿命を全うする直前まで元気で健康に暮らすことが出来る世界最初の国をつくる」というのが私の理念です。

この為には「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」といった3要素を動かさねばなりません。

技術イノベーションとは、「大病や事故にあった人々を健康な状態に戻す技術開発」そのものです。失明した人が見えるようになる。車椅子の生活を余儀なくされている人が歩けるようになる。あらゆる種類のがんや病気を完治して健康な生活を取り戻す。これらは革新的な技術開発によって可能になります。人間の寿命を機械的に伸ばすことはこの範疇には入りません。

制度イノベーションとは、今まで不可能だった大胆な研究開発を支援できる新制度を創ることや、完成した技術をいち早く使えるようにするための制度設計を指します。例えば、新薬認可は世界の多くの国々が米国食品医薬品局の定める制度にならっており10年以上の年月がかかります。つまり数年の余命宣告を受けた患者は、薬を手にする事なく最期を迎えてしまうのです。

そこで安全性さえ確立されれば、有効性の証明が完璧でなくとも効果が期待できると判断できた段階で、待ち望んでいる患者が使えるような制度設計が必要です。日本は2014年に世界に先駆けて再生医療分野で条件付・期限付早期承認制度を実現しましたが、これに続く制度改革をがん治療の領域でも実現させねばなりません。

エコシステムとは、有用な制度と新技術が次々と生まれる重要なサイクルを指します。例えば、がんの遺伝子治療、ウイルス治療など日本が最先端であるにもかかわらずカルタヘナ法に医薬品を含んでしまったがために開発と承認プロセスが遅れています。これではエコシステムが機能しません。技術・制度・エコシステムの循環によって、欧米中国など多くの国々に範を示すことが出来れば、世界に対し大きな貢献ができます。今までこの3つの分野に真剣に取り組んでまいりましたが、本日から皆さまと力を合わせて、より一層加速させていきたいと決意を持っております。



安倍 晋三

内閣総理大臣

第5回がん撲滅サミットの開催、おめでとうございます。

はじめに、医学の進歩に向けた皆様の日々の取り組みに対して、心より敬意の念を表したいと思います。先人の方々も含めたご尽力の成果もあり、我が国は、世界最高水準の平均寿命を達成し、人類誰もが願う長寿社会を現実のものとししました。これからは、人生100年時代を見据え、健康な状態で長生きしていただく「健康長寿社会」を実現することが大きな課題となっています。

政府では、全閣僚からなる健康・医療戦略推進本部の下、医療分野の先端的研究開発や新産業創出等を推進し、健康寿命の更なる延伸の実現に向けた取り組みを進めています。

中でも、長らく死因の首位を占めてきたがんについては、昨年3月に第3期のがん対策推進基本計画を決定し、①科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実、②患者本位のがん医療の実現、③尊厳を持って安心して暮らせる社会の構築、を目標に掲げ取り組みを進めています。

昨年度は、がん医療の中核を担う拠点病院について、類型や指定要件の見直しを行い、がん医療の更なる充実、また病院完結型ではなく地域完結・循環型の医療への転換を図ることとししました。

また、近年、個々人に最適化した患者本位のがん医療として「がんゲノム医療」が注目されています。本年6月に策定した成長戦略では、患者さんの同意や十分な情報管理を前提としつつ、質の高い全ゲノム情報と臨床情報を集積して、革新的な創薬や早期診断に活用できる全ゲノム医療の実現を盛り込みました。すでに、健康・医療戦略推進本部のもとで議論が始まっており、来年度以降も第2期健康・医療戦略の下で取り組みを進めてまいります。

さらに、治療と仕事の両立支援を進めるため、企業の意識改革や両立を可能とする社内制度の整備促進や企業、医療機関とそれらと連携するコーディネーターによるトライアングル型のサポート体制の構築など、がんになっても自分らしく生きることのできる地域共生社会の実現を目指しています。

これらの施策により、いつ、どこにいても安心して納得できる医療や支援を受けられるよう引き続き取り組み、ひいてはがんを克服し、活力ある健康長寿社会を形成していきたいと考えています。

最後に第5回を迎えた本会合がご参加の皆様にとって実り多きものとなることを期待いたしまして私のメッセージといたします。

がん撲滅サミット

内閣官房長官 メッセージ



菅 義偉

内閣官房長官

第5回がん撲滅サミットの開催を心よりお慶び申し上げます。

はじめに、医学の進歩に向け、日々、がん治療、がん研究に取り組んでおられる関係者の皆様の取り組みに対して心より敬意を表します。

がんは、昭和56年より死因の第1位であり、平成29年には、年間約37万人が亡くなり、生涯のうちに、約2人に1人が罹患し、3人に1人ががんで亡くなっているなど、依然として国民の生命と健康にとって重大な問題であります。

こうした状況を踏まえ、政府をあげてがん撲滅に向けた取り組みを積極的に推進すべく、昨年3月に閣議決定した「第3期がん対策推進基本計画」を基に、がん検診受診率の向上、がんゲノム治療の推進、治療と仕事の両立支援などに取り組んでいます。

また、研究開発分野については、2014年に策定した「健康・医療戦略」及び「医療分野研究開発推進計画」において、基礎研究から実用化へ一貫して繋ぐ重点プロジェクトの一つの柱として、がん研究を位置付けており、今年度は160億円の研究費を運用しています。

具体的には、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）を中心に、文部科学省、厚生労働省、経済産業省の三省と連携して研究開発を推進しており、血液がんだけでなく、固形がんに対しても高い治療効果を期待できるPrime CAR-T細胞の開発や、がん細胞だけを攻撃する、日本初の脳腫瘍に対するがん治療ウイルス薬の製造販売承認申請など、研究の成果が着実に見られているところです。

来年度以降は、これから策定する次期の戦略及び計画のもと、健康寿命延伸に資するよう予防にも着目しつつ、再生・細胞医療、遺伝子治療やゲノム・データ基盤といった医療技術・手法の研究開発を推進し、がん研究の一層の進展に寄与してまいります。

今後も、がん研究をはじめとして、健康長寿社会の実現に向けた多くの施策を通じ、国民が健康で安心して暮らせる社会、医療体制を構築すべく努めていきたいと考えています。



加藤 勝信

厚生労働大臣

「第5回がん撲滅サミット」の開催、誠におめでとうございます。

患者やご家族の皆様を始め、医療従事者や医学研究者及び各業界における企業の方々等がお集まりになり、本サミットが盛大に開催されることは素晴らしいことです。開催に御尽力された関係者の皆様に、

深く敬意を表します。

我が国において、がんは、昭和56（1981）年から死因の第1位であり、生涯のうちに国民の約2人に1人ががんに罹患し、3人に1人ががんで亡くなっているなど、依然として、国民の生命と健康にとって重大な問題です。

このような状況を踏まえ、厚生労働省では、がん対策のより一層の推進を図るため、昨年3月に「第3期がん対策推進基本計画」を閣議決定したところです。今回の計画では、「がん予防」、「がん医療の充実」、「がんとの共生」を3本柱として掲げております。

がん予防については、がんによる死亡率の減少という目標を達成していくため、がん検診の利益と不利益も踏まえ、科学的根拠に基づくがん検診の推進や受診率向上、精度管理の更なる向上等に取り組んで参ります。

また、がん医療については、本年6月に2種類の遺伝子パネル検査が保険収載されました。こうしたがんゲノム医療の更なる強化を図るため、本年9月に新たにがんゲノム医療拠点病院を設置し、がんゲノム医療中核拠点病院及びがんゲノム情報管理センター等との連携を図りながら、引き続き、がんゲノム医療の提供体制の強化を図っています。

さらに、がんとの共生については、がん患者の就労支援の推進を図るため、患者の状況に応じた治療と仕事の両立プランを活用したトライアングル型サポート体制の構築を進めています。

最後に、本サミットの成功と本日お集まりの皆様方の今後ますますの御発展、御健勝を祈念いたしまして、お祝いの言葉といたします。

がん撲滅サミット

東京都知事 メッセージ



小池 百合子

東京都知事

「がん撲滅」をテーマに立ち上げられたこのサミットが、5回目の開催を迎えられますことを、心よりお慶び申し上げます。

日々がん治療、がん研究に取り組んでいらっしゃる皆様に、心から敬意を表しますとともに、実行委員会や事務局の皆様をはじめ、開催に御尽力された関係者の皆様に感謝申し上げます。

がんは、昭和52年（1977年）以降、都民の死因の第1位であり、現在、都民のおよそ3人に1人が、がんで亡くなっています。高齢化が加速している東京都では、がん患者の今後一層の増加が予測されております。

このため、都は昨年3月に『東京都がん対策推進計画（第二次改定）』を策定し、「がん患者を含めた都民が、がんを知り、がんの克服を目指す」という全体目標の下、「科学的根拠に基づくがん予防・がん検診の充実」、「患者本位のがん医療の実現」、「尊厳を持って安心して暮らせる地域共生社会の構築」の三つを目標に掲げました。

都民が、がんに関する理解を深め、がんの患者や経験者の方が、必要な支援を受けながら、罹患する前と変わらず自分らしい生活をおくることができるよう、都は上記の計画に基づき、様々な施策を推進しております。がん治療と仕事の両立の推進に向けては、がんと闘う従業員を新たに採用したり継続雇用している事業主を都が支援する事業や、働きながら治療を受けやすい医療提供体制を構築していく事業などに取り組んでおります。

こうした施策を展開するなど、都は今後も関係者の皆様とともにがん対策を総合的に推進してまいります。

最後に、このサミットが、お集まりの皆様にとって実りのある場となりますとともに、がんを闘う患者と御家族の皆様の希望につながりますこと、また、皆様の今後の益々の御発展、御健勝を祈念いたしまして、私からのメッセージとさせていただきます。

公益社団法人 日本医師会会長 メッセージ



横倉 義武

公益社団法人 日本医師会 会長
第 68 代世界医師会 会長

第 5 回がん撲滅サミット開催に向けてご尽力されました、北島政樹先生におかれましては、5 月 21 日に急逝されましたこと、心から哀悼の意を表し、ご冥福をお祈りいたします。

さて、がんは予防と早期発見・早期治療が大切であることは論を俟ちません。がん検診の受診率向上のためには、国民一人ひとりに、がん検診の有効性や適切な受診について丁寧な説明が求められており、地域のかかりつけ医の役割は重要であります。日本医師会では、地域住民から信頼される「かかりつけ医機能」の能力を維持・向上するための研修制度のさらなる充実に取り組んでいるところです。

第 5 回のテーマは「がん医療にイノベーションを起こせ、立ち止まるな日本」ですが、近年の革新的な技術開発により、がん医療は急速な進歩を遂げています。AIなどの情報技術やゲノム医療の進歩は、将来の病気のリスクを知ることや病気での早期発見、高い治療効果に大変期待されています。一方でゲノム情報は究極の個人情報とも言われており、その取り扱いに関しては、保護や管理に万全を期す必要があります。そのうえで、全ての国民が安心・安全にその恩恵を享受できるものとなることが求められます。

我が国は超高齢社会に突入し、どう対応していくか、世界中が注目しているところであり、明るい高齢社会にしていくことが、高齢先進国である日本の一つの大きな役割であります。人生 100 年時代を迎えつつある今、国民一人ひとりにとってあらためて、健康で生きがいをもって、自分らしく生きるための長い人生設計が必要です。2015 年 7 月に日本医師会が日本商工会議所等と発足した日本健康会議では、国民の健康寿命の延伸を実現するため、共通の目標のもと、予防・健康づくりの取り組みを進めています。

日本医師会としましては、今後も、地域と関係機関との連携を密にし、かかりつけ医機能の充実を図り、継続的で包括的な保健・医療・福祉の実践を目指した地域医療を確立することで、医療に対する国民の信頼に応え続けていく覚悟であります。

本サミットが実りあるものとなりますことを祈念いたします。

がん撲滅サミット

一般社団法人 日本経済団体連合会 メッセージ



畑中 好彦

一般社団法人 日本経済団体連合会 審議員会 副議長
アステラス製薬株式会社 代表取締役会長

この度、「第5回がん撲滅サミット」が開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。また、当サミットの開催にご尽力されました関係者の皆様に心より敬意を表しますとともに、がん撲滅に向け当サミットの大会長を務めてこられ今年5月にご逝去された北島政樹先生に謹んで哀悼の意を表します。

がんは世界でも死亡原因の上位を占めておりますが、がんに対する医療は科学技術の進歩と多様化によって日進月歩で進化してきました。昨今では、ビッグデータやAIなどのデジタル技術の活用が進む中、新たな治療法の開発や診断技術の確立に向け、医療界と産学官が一体となってイノベーションの創出に取り組んでいるところです。

経団連では、革新的なデジタル技術と人々の創造力の融合によって、社会の課題を解決し、価値を創造する社会を「Society 5.0」とし、昨年3月に医療・ヘルスケアの将来像を示した提言「Society 5.0時代のヘルスケア」をまとめました。Society 5.0時代のヘルスケアでは、「医療から未病ケア・予防へ」、「画一的な治療から個別化医療へ」とその重心を移し、「個人が自らのデータを活用し、主体的に健康を管理する」ようになります。このような社会の実現には、ゲノム情報をはじめとする個人の健康医療データの活用が必須となります。その結果、個人が最適なヘルスケアサービスを最適な時期に受けられるようになり、健康寿命の延伸や医療・社会保障費の最適な配分にも資することが期待されます。

がん治療においては、ライフステージや就労状況などに基づく個人の多様なニーズに応じた治療やサポートが必要です。そのための治療技術の開発や新たなサポート体制の構築に対して、経済界が果たすべき役割は大きいと認識しています。加えて、治療を受けながら仕事をしている方、家族として治療を支えながら働いておられる方々が、より安心でき、そして柔軟に働くことができるよう、意識改革や社内制度の整備を進めています。また、健康経営にも積極的に取り組むことで、社員の健康づくりや疾病の発症予防・重症化予防などにつなげています。社員一人ひとりが安心して働くことができることは、企業活力の向上にもつながりますので、今後一層力を入れていきます。

がん撲滅を目指すには、患者さんご家族、医療関係者の皆様だけではなく、産学官も含めた垣根のないオールジャパンでの取り組みを進めることが不可欠です。私たち経済界も、皆様と手を携えながら、イノベーションを絶えず創出し、社会に還元することで、誰もが生き生きと活躍できる社会の実現に貢献してまいります。

公益財団法人 広島がんセミナー 理事長 メッセージ



田原 榮一

公益財団法人 広島がんセミナー 理事長
広島大学 名誉教授
英国王立病理医協会 名誉会員
国際ロータリー第 2710 地区 2016-17 年度ガバナー

「第5回がん撲滅サミット」が、創立5周年祈念として、素晴らしい企画の元に盛大に開催されますこと、心よりお慶び申し上げます。

また、人類の最大の敵であるがんの撲滅に向けて本サミットを毎年開催されている関係者各位のご尽力に対して、心から敬意を表したいと存じます。また、この度、公益財団法人広島がんセミナーが共催として支援させていただくこと大変光栄であります。

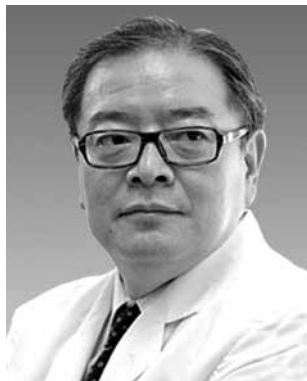
広島がんセミナーは、がんの予防と克服を目標として、広島県の財界、広島大学、広島県・市医師会等の支援のみにより平成4年に設立されたユニークな特定公益増進法人であり、今日まで、国際シンポジウム、県民公開講座、がん医療従事者育成を目的とした「先端のがん薬物療法研究会」等の学術集会を開催し、がんに関する最新情報を発信するとともに、若いがん研究者及びがん関連学会・研究会への助成事業等に取り組んで参りました。

加えて、国際ロータリー第 2710 地区（広島・山口、73 クラブ、会員数 3,294）は、2016 年度から3年間の地区戦略計画として「がん予防推進事業」を立ち上げ、全クラブが、がんの一次・二次予防、がん患者への就労支援、青少年へのがん教育等を実践し、大きな活動成果を挙げることができました。更に、会員の 65% が「がん予防新 12 力条」を順守、そして、会員の 87% の要望により、2020 年から「がん予防推進事業」を継続し、がん撲滅に向かって邁進する予定であります。

終わりに、広島がんセミナー及び国際ロータリー第 2710 地区の奉仕活動が、がん撲滅サミットの一助となることを祈念すると共に、「第5回がん撲滅サミット」が、我が国が抱える 2025 年問題の一つ「がん難民大発生」に大きな光があたることを心から期待します。

がん撲滅サミット

東京大学 医学部附属病院 病院長 メッセージ



瀬戸 泰之

東京大学 医学部附属病院 病院長

創立5周年祈念～第5回がん撲滅サミットの開催誠におめでとうございます。

当初の大会長でいらっしゃった亡き北島政樹先生には私もご生前、一方ならぬお世話になりました。

医療界の重鎮がお亡くなりになったあとの衝撃を乗り越えて本日を迎えられた原丈人大会長をはじめとする関係者の皆様に心より敬意を表します。

厚生労働省人口動態統計によりますと2017年、我が国では134万397の方が亡くなっており、うち37万3334人ががんで命を失っています。

総死亡率に占める割合は27.9%であり、いまだ死因順位の第1位を占めていることがわかります。人口減少傾向にある我が国において『がん撲滅』が最も重要な、かつ喫緊の課題となっています。

そのためにはがんを根絶やしにする根治的治療のさらなる確立が望まれます。その一方で、がんを乗り越えたサバイバーの方々も大勢いらっしゃいますが、私共の東京大学病院でも従来であれば不治と考えられた症例に対してもネバーギブアップの心意気で集学的治療を行い、予後向上に努めています。

何より大事なことは患者ファーストを貫くことと考えます。

私共の考える『患者さんの権利』は、

- 最善の医療を受けること
- ご自身の情報を得ること
- 質問や意見を述べること
- ご自身の意思で医療を選択できること
- ご自身の情報が適切に守られること

これらを理念とし、患者の皆さんが快適な治療を受けられる環境を作り上げることを前提として、より良い医療を目指しております。

本日の第5回がん撲滅サミットは、政府をはじめ財界、気鋭の研究者や臨床医の皆様が英知を結集されますが、あくまでもその主役は、がん患者の皆様でいらっしゃいます。

本日のサミットが患者ファーストの精神に基づいて素晴らしい明日への希望に満ちた指針を示されることを心より期待しております。

学校法人 慈恵大学 理事長 メッセージ



栗原 敏

学校法人 慈恵大学 理事長

創立5周年祈念～第5回がん撲滅サミットの開催誠におめでとうございます。北島政樹先生がお亡くなりになったあと、原丈人大会長のもと本日の開催を迎えられた関係者の皆様に心より敬意を表させていただきます。

さて、高齢社会になり国民の二人に一人はがんに罹患すると言われていています。以前は、がんを告知することは死を宣告するのに等しいと考えられていました。しかし、現在では、がんは患者さんに告知し、患者さんと医師が情報を共有して連携しながら、治療を行う時代になってきました。

東京慈恵会医科大学附属病院(本院)は、がん診療連携拠点病院として様々ながんに対して、集学的にかつ適切な治療を行えるような診療体制を敷いており、腫瘍センターが外来化学療法の管理、がんのゲノム情報に基づいた医療、原発不明がんの診断と治療などを行っています。

また、本院は距離的にも近い国立がん研究センターと協定を結び、がん患者さんに適切な医療を提供しています。同様に、附属柏病院も国立がん研究センター東病院と連携して、地域住民の方に対して良質のがん診療を行っています。

がんは闘う病であると同時に共生する時代になってきました。本院には緩和ケア診療部を設け、がん患者さんの苦痛に対して緩和治療を行っています。

また、がん罹患した患者さんの社会復帰支援の一環として、産業医と連携して職場復帰を促す両立支援にも取り組んでおり、すでにこの制度を利用された方もいらっしゃいます。

大学は港区の要請で指定管理者として、港区立がん在宅緩和ケア支援センターを運営しています。様々ながん患者さんとご家族がここを訪れ、身体的、精神的、社会的問題に関する情報を得ると共に、患者さん同士が励まし合い、より良い療養環境を提供できるように配慮しています。

本学の学祖・高木兼寛は、“病気を診ずして病人を診よ”という教えを残しています。病気そのものを診るのではなく、病を抱えている人に対して心のケアを含めて全人的な医療を提供する、という意味が込められています。今年は学祖生誕170年の年です。がん患者さんとそのご家族を支援できるように、今後も一層努めてまいります。

がん撲滅サミットが日本の明日への指針となりますよう私共も応援させていただきます。

がん撲滅サミット

公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長 メッセージ



山口 俊晴

公益財団法人 がん研究会有明病院 名誉院長

21世紀になりがんの医療も大きく変化してきました。早期のがんが沢山発見されるようになったこと、そして患者さんの高齢化が進んできたことから、患者さんの負担の少ない低侵襲治療が普及してきました。

消化管のがんの内視鏡治療や腹腔鏡によるがん手術は、すでに広く普及しており、がん患者さんの治療後の生活の質も向上しました。放射線治療もピンポイントでがん病巣を治療できる、陽子線やIMRTなどが普及してきています。薬物治療の分野でも分子標的薬など新しい抗がん剤が続々と開発され、治療成績も格段に向上してきています。

また、最近にはニボルマブに代表される免疫チェックポイント阻害薬が臨床応用され、通常の治療が効かなかった患者さんで一定の成果が上がっています。

がん治療ばかりでなくがんの発生のメカニズムが次第に明らかになってきた結果、がんの予防も夢ではありません。実際、ウイルス性肝炎と肝臓がん、パピローマウイルス感染と子宮頸がん、ピロリ菌感染と胃がんとの関係が明らかになってきました。そして、これらの感染症に対して適切な感染予防や治療を行うことで、これらのがんの予防も現実のものとなってきました。その一方で膵がんによって代表される難治がんの治療には、まだ十分な見通しが立っておりませんが、このような難治がんこそニボルマブなど新しい治療法に大きな期待がかかっています。

このように21世紀になってからのがん医療の進歩の速さには目を見張るものがありますが、「がん撲滅サミット」は次々に現れる最新のがん治療について、最新の知識を提供し共に考えることで、希望をもってがんを闘う人々に勇気を与えてきました。

今回の「第5回がん撲滅サミット」がさらに多くの人々に、新たな希望と勇気を与えることを期待しています。

公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター所長 メッセージ



中村 祐輔

公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

創立5周年祈念～第5回がん撲滅サミットの開催誠におめでとうございます。

2016年、オバマ前米国大統領は一般教書演説（日本の首相方針演説に相当）で「がんで死なさない米国」を目指すムーンショット計画を打ち出しました。がんの治癒を目標とした国家戦略が提案されたのです。「進行がんは命を落として当然」、「再発すれば延命だけを考える」、わが国では「このような延命医療」が最善の標準医療とされていますが、それとは次元の異なる、がん患者さんたちやその家族が求める崇高なゴールが設定されたのです。

1970年前後、小児の急性リンパ性白血病の5年生存率は10-20%という数字でした。私は1970年代の半ば、医学部の学生時代に、大阪にある小児専門病院で夏休みの一時期を過ごしました。その時、入院していた小児がんの患者さんたちの苦しんでいる姿を直視することができなかったことが、苦い思い出として残っています。しかし、現在のこの白血病の5年生存率は95%となっています。もはや、死の病ではないのです。がんは「死の病」ではなく、「撲滅することができる病気」になってきているのです。

がんという敵を知り、それを攻撃目標として戦略を練れば、がん撲滅という大目標に向かって進むことができると考えています。もちろん、リキッドバイオプシーのような早期発見のための新技術も開発されてきています。また、免疫療法も新しい可能性が示されつつあります。がん医療は、「ゲノム」というキーワードを核に、「リキッドバイオプシー」、「免疫療法」、「人工知能」を駆使すれば、早期発見、最適治療、新薬開発につながっていくはずです。「標準療法」と「延命療法」の壁を突き破り、患者さんや家族の皆様に、新しい可能性・希望を提供し、笑顔を取り戻すために、オールジャパン体制を構築していくことが医療従事者・研究者の責務ではないのでしょうか！

日本に帰国して1年余りが過ぎましたが、日本のがん対策が古色蒼然としている印象を強く持っています。がん遺伝子パネル検査のように、日本で一番が、世界の10年遅れでいいはずがありません。

新しい時代を作るには患者さんたちの行動が重要です。是非、第5回がん撲滅サミットを通じてオールジャパンでがん革命を起こしましょう。

がん撲滅サミット

公益財団法人 日本対がん協会会長 メッセージ



垣添 忠生

公益財団法人日本対がん協会 会長・国立がんセンター 名誉総長

第5回がん撲滅サミットの開催、誠におめでとうございます。

がんは高齢者に多い病気ですが、日本は超高齢社会に急速に移行しつつあり、今や年間に100万人が罹患する時代を迎えました。

また、国民の2人に1人ががんに罹患する時代ですが、がんは誰にとっても無縁の病気とはいえません。私どもはそうした時代に生きています。

がんの5年生存率は、私が医師となった50年以上前には40%以下だったのですが、医療の進歩とともに上昇し、今や65%を越えています。つまり、がんは治る病気になってきましたが、依然として世の中には「がん＝死」というイメージが氾濫しています。

そのため、がんと診断されると、多くの人々が「頭が真っ白になった」といい、治療中もいつ再発転移するかと怯え、疎外感、孤独感に苦しんでいます。

日本対がん協会では、この状態を何とかしようと、2017年6月に

「がんサバイバークラブ」

を立上げ、サバイバー支援を続けています。昨年はがんサバイバー支援を訴えて、私自身、77歳の老骨にムチ打って全がん協加盟32施設、南は九州がんセンターから北は北海道がんセンターまで3,500kmを約6ヶ月かけて基本的に歩いて行脚してきました。

各がんセンターでのサバイバー交流会では就労の問題や、治療が長びいた際の費用の負担の重さなど、数多くのがん患者の生の声を聴くことができました。

がんのゲノム・エピゲノム情報が実診療に取り入れられ、新しい免疫チェックポイント阻害剤やCAR-T細胞療法などが保険診療に組み込まれるなど、がん医療は日々進歩しています。

10年先には、「がんは誰でもかかる可能性のある普通の病気の一つ」とそのイメージが変われば、がん患者、サバイバーに対する偏見や差別は自然に消えていき、がん患者、サバイバーも明るく生きることができる時代が来るでしょう。それを目指す上でも、この

「がん撲滅サミット」

は、関係者の衆知を集めるという意味で、極めて重要です。

本サミットの大成功を心より祈念しながらメッセージとさせていただきます。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長 メッセージ



嘉山 孝正

国立研究開発法人 国立がん研究センター 名誉総長
山形大学医学部 参与

がんが日本人の疾患別死亡率の最高になった1981年から、本年度で38年が経過した。この間、1981年以前には死亡率第1位だった脳血管障害は高齢化率の上昇があるにもかかわらず、「高血圧治療、予防（塩分摂取抑制）」「高脂血症治療、予防」等といった医学界、厚生労働省の国民への種々の対応で死亡率の上昇が認められていない。一方、がんは年齢との相関が脳血管障害以上に相関が強いため医学の進歩で、治癒するがんが多くなっているにも関わらず増加の一途をたどっている。むしろ、医学の進歩でいったん治癒した患者さんが別のがんを患う時代になっている。従って、医学の進歩があるが未だがんに罹患する患者さんは多く、恒常的対応が社会的にも医学的にも重要である。

本がん撲滅サミットは代表顧問中見利男氏、特別顧問二川一男氏の熱意で、政府、財界、医学界を駆り立てて総意をもって、年1回の国民への啓発を目的に施行されている重要なサミットである。内容は時の最先端のがん医学、社会的テーマ等を取りあげ、他分野の人々が聞いても十分明日からの現場に役に立つ内容になっている。

本年10月、厚生労働省は昨年認定した11病院の「がんゲノム医療中核病院」に加えて、34の「がんゲノム医療拠点病院」を指定した。8年前に国立がん研究センターが中心となり6ナショナルセンターで「ゲノムバンク」を創設してから8年目にゲノムが国民のがん医療の現場で役に立つ時代を迎えた。米国に遅れる事数年であるが、がん医療でもゲノムによってがん患者さんへの個別医療を開始できたと言える。がんの治療のwindow（窓）が広がった時を迎えた。今後はこれらの事業を中心にさらにがんの情報が集積し、加速度的に医学の進歩が起きると期待される。本サミットの開催が益々意味を持ち重要になると考えられる。

締めとして、本来の本サミットの会長の北島政樹先生がお亡くなりになったことに衷心より哀悼の意を表します。北島先生には個人的にも20年前から種々のお世話になったが、本サミットでの会長としてのお姿を拝見したかった。北島先生には今後も多くのご指導を仰ぎたかった一人として大変残念です。先生が天国から本サミットと私たちを導くことをお祈りいたします。

がん撲滅サミット

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長 メッセージ



國土 典宏

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター 理事長

がんが日本人の死因の第一位になってから40年近くが経とうとしています。この間、国の対がん政策の後押しを受け、がん診療に携わる多くの医療関係者の努力でわが国のがん治療成績は格段の進歩を遂げました。私は肝胆膵外科医として肝がんや胆管がん、膵がんの外科治療に長年携わってきました。いずれも再発の多い難治がんですが、外科技術や化学療法の進歩により予後は徐々に改善しており、日本の治療成績は世界的にみてトップクラスにあると言えます。一方で、根治的治療のできない進行がんの患者さんや、再発がんややはり治療が困難な患者さんも多くいらっしゃるのも事実です。

本サミットは作家・ジャーナリストの中見利男氏が、がん患者死亡率を将来的にゼロにしていくなために、医療をはじめ、政府、官僚、経団連などの各界に呼びかけて「オールジャパンでがん撲滅に向けて立ち上がろう」と提唱したことから始まったがん撲滅ムーブメントです。今回から内閣府参与の原丈人様を大会長に迎え、さらにグローバルな視点からがん撲滅を考えるサミットになるのではないかと期待申し上げております。

今回は「がん医療にイノベーションを起こせ！立ち止まるな日本!!」をテーマに大阪大学特任教授坂口志文先生、東京大学医科学研究所教授・藤堂具紀先生、がん研究会がんプレシジョン医療研究センター所長・中村祐輔先生など高名な先生方に講師をお願いし、がんの免疫療法、ウイルス療法、そしてAIホスピタルなど最新の話題についての講演をいただくことになりました。後半の公開セカンドオピニオンでは多くのがん治療のエキスパートにご登壇いただき、会場の皆様からの質問に答えていただくこととなります。昨年第4回は1000人を超える皆様の来場をいただき成功裏に終了いたしました。今回もそれに劣らず素晴らしいサミットになるものと実行委員会の一人として確信しております。ありがとうございました。

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 メッセージ



中釜 斉

国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長・総長

第5回がん撲滅サミットの開催おめでとうございます。

今や国民の2人に1人は一生に一度はがんに罹ります。がんが1981年に日本人の死因第一位となって以降、社会の高齢化に伴い、がん罹患患者数は増加の一途をたどる一方で、全がん5年相対生存率（5生率）は6割を超え、医療技術の進歩により年々向上しています。

今年6月からは、がんの遺伝子パネル検査が保険診療として可能となり、ゲノム情報に基づいて個々人に最適化された医療を提供するがんゲノム医療（Precision Cancer Medicine）が本格的に始動しました。がんゲノム医療中核拠点病院、拠点病院、連携病院等が連携してゲノム医療を提供するとともに、提供できる治療薬の拡大を目指した臨床試験や治験の加速が求められています。希少がん・小児がん等のアンメットメディカルニーズを抱えるがん種に対する医療シーズ開発の観点からも、がんゲノム医療の実現はがん医療の転換期として期待されています。

また、がん罹患率・死亡率のさらなる低減には、がんの予防・早期診断領域の研究開発にも大きな期待が寄せられています。リキッドバイオプシーや高感度の生体イメージング等の低侵襲な診断技術の開発も必須です。一方で、がんの治癒率向上により、がんサバイバーの社会との共生も重要なテーマです。がんと診断された方の離職率は依然として三割にもおよぶことから、がん患者の仕事と治療を両立させる社会的な支援体制の一層の充実が望まれます。

がん医療・がん研究の革新に挑戦し、全てのがん患者とそのご家族が常に希望を持ち続けることのできるがん医療の提供とその研究基盤の整備の推進が重要であると考えています。

最後になりましたが、本サミットの成功を祈念しメッセージといたします。

がん撲滅サミット

大阪国際がんセンター 総長 メッセージ



松浦 成昭

地方独立行政法人 大阪府立病院機構
大阪国際がんセンター 総長

本サミットを核にしてがん撲滅に力を合わせましょう！

がん撲滅サミットは医療者だけではなく、政・財・官、そして患者・家族を初めとした市民の皆様もいっしょになって、オールジャパンでがんの撲滅を目的として行われるもので、第5回目を迎えました。様々な分野の最前線で臨床・研究に取り組んでいる医療者が集まり、市民の方々と本音で意見交換をすることが最大の特徴です。日本人の2人に1人ががんにかかり、がんは国民病と言うべき時代になっていますが、誰もがこのサミットに結集し、実のある議論をすることにより、がんの撲滅に向けて力を合わせましょう。

がんの医療はどんどん進化しています。かつては「不治の病」と言われ、治療成績は不良であったので、患者さんには告知もしませんでした。その時代から見ると、がんの診断方法は向上しましたし、また治療法は手術・放射線・薬物療法いずれも顕著な進歩が見られ、治療成績は全体として大きく改善しました。しかし、依然として高度進行がん・再発がんに対する治療手段は限られており、延命期間は延びましたが、最終的には不幸な転帰をとげることが多く、さらなる努力が必要です。

がん医療の進歩とともに、患者さんが普通の生活を送るための支援を行うことも医療者に求められるようになりました。がんが治ることはもちろん大切ですが、治ればそれでよいというものではなく、QOLを十分に保って、毎日の生活を送ることも同じくらい大切だという患者さんもおられるようになりました。患者さんの求めるニーズも多様化しており、医療提供側もきめ細かく対応する必要があり、変革を迫られるようになってきました。

がん撲滅サミットは第一線のがんの研究者・臨床家が集いますが、主役は一般市民の皆様です。このサミットでがん医療の最前線を知るとともに、十分に議論し意見交換することが大切です。受け身ではなく、攻めの姿勢・積極的な意気込みで皆の叢智を結集することが、名前の通りがんの撲滅をめざすことにつながります。今回は第5回という節目の大会です。一人でも多くの人の積極的な参加をお待ちしています。



蒲島 郁夫

熊本県知事

「第5回がん撲滅サミット」の開催に寄せて、ごあいさつを申し上げます。

まずは、今年もがん撲滅サミット実行委員会の皆様には、熊本地震復興のためにチャリティ募金を実施していただいておりますことに対して、県民を代表して深く感謝申し上げます。県内に未曾有の被害をもたらした熊本地震から3年半が経ちました。皆様方のご支援により、これまで約4万人の方々が住まいの再建を実現されました。また、産業や経済など各分野で着実に復旧・復興は前進しています。一方で今なお約7千人の方々が仮設住宅での生活を余儀なくされています。また甚大な被害を受けた益城町の復興まちづくりなど重要な課題が数多く残されています。これからも被災者お一人お一人に丁寧に寄り添いながら全力で支援にあたって参ります。

さて、がんは国民の2人に1人の方がかかる病気になりました。私自身も約3年前に早期の胃がんが見つかり、内視鏡手術を受けた経験があります。その後は健康状態に全く問題はありませんが、早期発見の重要性を再認識するとともに、がんが特別な病気ではないことを実感いたしました。

本県では、「第3次熊本県がん対策推進計画」の中で、「がん患者を含む県民が、がんを知り、がんと向き合い、共に支え合う社会」を目指して、①がんを知りがんを予防する、②適切な医療を受けられる体制を充実させる、③がんになっても自分らしく生きることのできる社会を実現する、の3つを目標に掲げ、がん対策の推進に力を入れています。また、熊本地震での教訓を踏まえ、災害時のがん診療機関同士の情報共有の仕組みづくりにも取り組んでいます。

今後も、がんについて正しい知識を持ち、皆で支え合う社会づくりの実現に向けて、患者の皆様、ご家族、医療関係者、支援者の方々と協働してがん対策に取り組んで参ります。

最後になりますが、本日のサミットが、参加者の皆様にとって実りあるものとなることを期待いたします。私からのメッセージとさせていただきます。

がん撲滅サミット

第5回がん撲滅サミット 参与メッセージ



鈴木 義行

第5回がん撲滅サミット 参与
福島県立医科大学 医学部 放射線腫瘍学講座 主任教授

第5回がん撲滅サミット～がん医療にイノベーションを起こせ！ 立ち止まるな日本!!～が、東京ビッグサイト国際会議場にて盛大に開催されますこと、心よりお祝い申し上げます。

本サミットが、回を重ねる毎に内容が飛躍的に充実し、日本のがん医療のトップランナーとしてご活躍される方々が多数ご講演されるまでになりましたこと、たった数年前、第2回大会の大会長をさせていただきましたものとして、“がん撲滅”に対する市民の皆様方の強い思いと御支援に改めて襟を正す思いでございます。また、第5回大会実行委員の皆様方の熱意とご尽力、そして、ご支援いただいております患者様・御家族様、組織・団体の皆様方に御礼申し上げます。

私は放射線治療を専門とする医学部の教員（医師）であり、長らく放射線治療と免疫療法の併用療法に関して研究・開発を行ってまいりました。“免疫療法”は、長い間、効果に疑いの目が向けられることも多々ありましたが、ノーベル生理学・医学賞を受賞された本庶佑先生やジェームス・アリソン先生らにより開発された免疫チェックポイント阻害剤が世に出たことで、一転して、最先端・最有望の治療法となりました。すでに複数のがんで標準治療として使用されている他、放射線治療の分野でも、ステージ3の肺がんに対して、免疫チェックポイント阻害剤と放射線治療の併用療法が、すでに標準治療としての地位を確立しております。研究面でも、新たな免疫チェックポイント阻害剤の開発はもとより、免疫細胞療法の開発（CAR-T細胞療法が本年5月に保険適用となりました）や、免疫療法と放射線治療を含む他治療との併用療法（集学的治療）の研究・開発が加速度的に活発化しております。本当に、“あっ”と言う間に世の中が変わる、ということを実感いたしました。今日治すことのできない患者さんを、明日治すためには、新たなエビデンスの創出が必要です。私自身も、「がん撲滅」を目標に、日々の臨床と研究からのエビデンスの創出、そして、後進の育成に取り組んでまいります。

最後に、第5回がん撲滅サミットが、がん研究・がん診療に関わる者、そして、がん撲滅を心待ちにしている市民の皆様方の熱意に包まれる場となることを祈念しております。

天国の^{さかた なつ の}坂田捺乃さんへ贈る 追悼文

第5回がん撲滅サミット代表顧問 中見 利男



3年前の2016年10月22日。この日開催されたがん撲滅サミットのステージで1人の少女が生きることの尊さ、何かに向かってチャレンジしていくことの大事さ、そして小児がんと闘っている同世代の子供たちに向かってエールを送る予定でした。

当時、中学2年生だった坂田捺乃（さかた なつ の）さんが、その人です。平成13年3月26日生まれの坂田捺乃さんは三沢市立三沢第一中学校時代に脳幹グリオーマという小児がんを発症しました。

小児がんと闘っている彼女のことを知ったのは、妻の友人の紹介でした。

リハビリ中の2015年7月、小児がん撲滅を願っていた彼女に、がん撲滅サミット2016への登壇をお願いすると、リハビリ中の彼女から、こんなメールが返ってきました。

「ありがとうございます。ほかの子供たちのお役に立てるのでしたら頑張ります。でも、先生、私、緊張したら笑ってしまうので、どうしようかと思います」

読書が好きだった彼女は、その一方で皆さんもお名前を聞けばご存じの国民的なアーティストの大ファンでした。手術の前や放射線治療中、そして病室でイヤホンを通じて、彼らの音楽に耳を傾け、がんを闘う勇気と前向きに生きていくパワーをもらっていたそうです。

2015年9月に病気が再発し、その後、自宅治療で頑張っていたなっちゃんにもクリスマスが近づいてきました。ある日、ご両親が「なっちゃん、クリスマスプレゼント何が欲しい」と尋ねると、彼女は「私のものはいいから、大好きなアーティストに小児がんで苦しんでいる子供たちや家族が元気になる歌を作って欲しい」

ご両親は困惑して顔を見合せました。彼女の夢があまりにも壮大で、お店で買えるようなリクエストではなかったからです。

「それ以外に、なっちゃんが欲しいものはないの?」と聞いても、「ない。あの人たちに私と同じように苦しんでいる子供たちや支えてくれている家族が元気になる歌を作って欲しいの」

この言葉を聞いたご両親は行動を起こそうと決意したのです。多くの人たちに坂田捺乃さんの願いを伝え、少しでも彼女の夢を応援してほしいと奔走したのです。

お金では買えないプレゼント。しかも、同世代の小児がんで苦しんでいる子供たちを励ましてほしいという崇高で清らかな願い。彼女の願いだけでも、そのアーティストに届けようと皆が八方手を尽くしました。

がん撲滅サミット

追悼文

そして2016年1月のある日。父親の篤史さんの携帯に一本の電話がかかってきました。

「突然のお電話で失礼します。坂田捺乃さんのお父さんですか？」

その声は、あのアーティストご本人だったのです。しかし坂田捺乃さんの意識は混濁し、眠ったままの状態です。それでも篤史さんは捺乃さんの耳元に携帯電話を当ててあげました。かすかにアーティストの声が漏れてきます。

「なっちゃん！ なっちゃん！ 早く元気になってね。応援しているからね。東京の病院に入院することがあったら、必ずお見舞いに行くから頑張っってね。応援の歌はすぐにできなくても、僕らの歌の中から応援の歌になると思うものをみんなで選んで送るからね」

その後、坂田捺乃さんと小児がんで闘う子供たちのために、そのアーティストとメンバーが皆で選んだ曲が送られてきました。坂田捺乃さんの夢が奇跡を起こしたのです。

我々は心から感動を覚えました。自分だけではなく同世代の小児がんで闘う人たちを励ましてあげて欲しい。そんな純粋な思いが人を動かすのだと。

しかし、その1ヶ月後の2016年2月6日、闘病の末、彼女はわずか14歳で天上の星になりました。

彼女から私に送られてきた最後のメールには『中見先生、私はしっかり勉強して女医さんになりたいと思います。女医さんになって小児がんの子どもたちをみんな治してあげたいんです』と強い決意が綴られていました。

星になった彼女の名前は、『光明院天心桜華清童女』。天女のように清らかな心で、地上で闘い続けるがん患者の皆さんを応援する少女という意味です。

私は思います。彼女の崇高な願いは小児がんを抱えて闘う子供たちだけでなく、我々に向けて託された夢だったのではないかと。

本日、闘病中だった彼女が、2015年6月9日に開催された第1回がん撲滅サミットに寄せてくれた手紙をご紹介します。

『がん撲滅サミットに参加された皆様にお手紙を差し上げるご無礼、どうかお許し下さい。また、リハビリ中のため手が思うように使えず、乱筆にて失礼いたします。

病気だと分かった日。私は怖くて怖くて涙が止まりませんでした。なぜ自分が、こんな病気になってしまったのだろうと悔しかったです。

今、退院してから検査がすごく怖いのです。病院で何度もとったMRIも大きな音がして、狭くてすごく怖いのです。また病気が大きくなって、せっかく頑張った入院生活をまたやり直すことになったら、前と同じように治療はうまくいくのか。たくさん不安があります。

私は、脳幹部に腫瘍があります。先生からは手術では手が出せない所だと説明を受けました。だから腫瘍は小さくすることしかできません。一生この病気と離れられないのかもしれないかもしれません。すごく悔しいです。

でも、私の主治医の先生は、こう言ってくれました。

「泣いてもいいけど、泣いたら小さくなってくれるような弱い病気じゃない。だから一緒に闘おう」

私はこの言葉のおかげで、不安で泣いてしまうことがあっても、すぐに前向きになる事ができます。その先生の下には私と同じような病気の子供がたくさんいました。中には二回、三回と入院している子もいて驚きました。でも、みんな元気で明るく頑張っている姿を見て、私も前向きになれました。

私の母はずっと入院中、そばにいてくれました。いつも明るく私を笑わせてくれて元気をもらっていました。でも中には、私より小さい子供が一人で寝泊まりしていました。私はお金のことで家族のサポートのことで、よい環境で治療を受けることができた、今、思っています。

しかし、すべての子供たちがそうではありません。気持ちを強くもって治療に臨むことが、私は大事だと思います。本人や家族が治療に集中できる環境作りが大切だと思います。

治療を受ける私たちにとって、周りのサポートはすごく重要です。大切な人がそばにいてくれれば、きっと前向きな気持ちになれると思います。

私と同じような病気の子供たちの、がまんや不安な気持ちを少しでも減らしてほしいです。

私が病気になってから、中見先生や東京の病院の先生に助けられて、病気と闘うことができています。手術後に不安になったり、傷口が痛んだり、ワガママを言いたくなることもきっとあると思います。

そんな時、だれかがそばにいて、きっと力になるし、大事なことだと思います。

私は今まで、ニュースなどを何気なく見ていました。難病で海外に行くための募金を集めたりしているのを目にしました。早く治療をして、病気を治したいのにお金のことで困ってしまうのは、すごく大変だと思います。

私は自分の治療費のことなどを知りません。少し不安になったこともあったけど、父が「何も気にしないでいいんだからな」と言ってくれて、安心しました。また、弟が青森にいますが、父と祖母が面どうを見て、母はずっと私につきそってくれました。

しかし、小児難病と闘っている子供たちが日本には、まだたくさんいると思います。

私の小さな力で何かできることはないかと思い、今、こうして手紙を書きました。

私の願いが届きますように。

坂田 捺乃』

以下はご両親からいただいた第5回がん撲滅サミットへのメッセージです。

『娘の闘病生活が終わり3年9ヶ月余り。様々な感情と共に移り行く日々を、娘をいつも傍に感じつつ過ごしています。

代表顧問、中見先生のお力添えにより、素晴らしい医師団に出会い、病気と向き合うための心のケアから始まり、主治医と共に強い気持ちで治療に臨みました。

娘も私たちも最後まで諦めず、その後も様々な医師と治療の可能性を探り、納得した治療を受けた結果として、寂しさを抱えながらも、前向きに生きようとする今があると感じています。

本日、がん撲滅サミットに参加されている患者、ご家族様のお悩みやご心配事もまた、様々でしょう。皆様が治療に向けたヒントを得られ、共に闘って頂ける医師に巡り合われる事を願ってやみません。

娘は最後まで病気と向き合い、また、同じ境遇の子供達に心を痛めておりました。

今回のサミットが、そのようなお子様方やそのご家族にとっても、ひとつの希望となりますことを心よりお祈りいたしております。』

我々、がん撲滅サミットは星になった彼女の夢を叶えるため、小児がん撲滅に挑戦していくことをここに誓います。

がん撲滅サミット

講演者プロフィール



はら じょうじ
原 丈人 先生

「がん撲滅に向けた日米連携最前線」

第5回がん撲滅サミット大会長
内閣府参与
アライアンス・フォーラム財団会長
デフタ パートナース グループ会長

[略歴]

27歳まで中米考古学研究の後、渡米し在学中に起業。84年デフタ パートナースを創業、米・英・イスラエルで情報通信、半導体、ライフサイエンス分野のスタートアップベンチャーに出資、経営参画し、世界的企業へと成長させた。

近年は、「天寿を全うする直前まで健康であることを実現することができる世界最初の国を創る。」という理念を実現するために、DEFTA Healthcare Technologies, L.P. (事業開発会社) を設立し「技術イノベーション」「制度イノベーション」「エコシステム」の構築に取り組み、米欧日で革新的技術の事業化に取り組んでいる。

一貫して株主資本主義に警鐘を鳴らし、公益資本主義の実現を提唱し、香港中文大学経営学大学院招聘教授、大阪大学医学部大学院招聘教授として若者に理念を説く。

国連政府間機関特命全権大使、ザンビア大統領顧問、米共和党ビジネスアドバイザー、リーボード名誉共同議長、日本の財務省参与、国連経済社会理事会の特別協議資格を有するアライアンス・フォーラム米合衆国公益財団会長など国内外で公職を歴任。

著書に『増補 21世紀の国富論』(平凡社)、『公益資本主義』(文春新書)がある。



いずみ ひろと
和泉 洋人 先生

「がん撲滅に向けた日本政府の挑戦 2019」

内閣総理大臣補佐官
内閣官房健康・医療戦略室 室長

[略歴]

- 昭和 51 年 4 月 建設省 入省
- 平成 13 年 1 月 国土交通省 住宅局住宅総合整備 課長
- 平成 16 年 7 月 国土交通省 大臣官房審議官 (住宅局担当)
- 平成 19 年 7 月 国土交通省 住宅局長
- 平成 24 年 10 月 内閣官房 参与 (国家戦略担当)
- 平成 25 年 1 月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備並びに地域活性化担当) (第 2 次安倍内閣)
- 平成 29 年 11 月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当) (第 4 次安倍内閣)
- 平成 30 年 10 月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当) (第 4 次安倍改造内閣)
- 令和 元年 9 月 内閣総理大臣 補佐官 (国土強靱化及び復興等の社会資本整備、地方創生、健康・医療に関する成長戦略並びに科学技術イノベーション政策担当) (第 4 次安倍第 2 次改造内閣)

講演者プロフィール



すずき やすひろ
鈴木 康裕 先生

「がん対策加速化への道 2019」

厚生労働省 医務技監

[略歴]

昭和 59 年 慶応大学医学部卒。同年、厚生省入省。
平成 10 年 世界保健機関 派遣
平成 17 年 医政局研究開発振興 課長
平成 21 年 厚生労働省新型インフルエンザ対策推進本部事務局 次長
平成 22 年 保険局医療 課長
平成 24 年 防衛省 衛生監
平成 26 年 厚生労働省大臣官房技術総括 審議官
平成 27 年 (併) グローバルヘルス 戦略官
平成 28 年 6 月 厚生労働省 保険局長
平成 29 年 7 月より現職



さかぐち しもん
坂口 志文 先生

「患者のための免疫療法ー世界最前線」

大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 特任教授

[略歴]

学歴・職歴

1976年 3月 京都大学医学部医学科 卒業
1976年 4月 京都大学大学院医学研究科 入学
1980年 4月 京都大学医学部 免疫研究施設及び附属病院輸血部 医員
1983年 9月 京都大学医学部 博士号取得
1983年 9月 Johns Hopkins 大学 客員研究員
1987年 7月 Stanford 大学 客員研究員
1989年 7月 Scripps 研究所 免疫学部 助教授
2007年 10月 京都大学 再生医科学研究所 所長
2011年 4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学分野 教授
2016年 4月 大阪大学 免疫学フロンティア研究センター 実験免疫学分野
特任教授 (現職)、大阪大学 名誉教授、京都大学 名誉教授
2017年 4月 大阪大学 栄誉教授

賞

1986年 7月 Lucille P. Markey Award for Biomedical Science
2004年 6月 Cancer Research Institute's 2004 William B. Coley Award
2005年 11月 武田医学賞
2007年 4月 文部科学大臣表彰科学技術賞
2008年 3月 上原賞
2008年 11月 慶応医学賞
2009年 11月 紫綬褒章
2012年 5月 米国 National Academy of Sciences 外国人会員
2015年 1月 Maharshi Sushruta Award (India)
2015年 9月 トムソン・ロイター引用栄誉賞
2015年 10月 Gairdner International Award (Canada)
2017年 5月 Crafoord Prize (Sweden)
2017年 10月 文部科学省 文化功労者 顕彰
2019年 11月 文化勲章受賞 ほか多数

がん撲滅サミット

講演者プロフィール



おかだ なおみ

岡田 直美先生 「このまま死んでる場合じゃない!令和元年最新報告」

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所病院 客員研究員、岐阜大学 抗酸化研究室

[略歴]

- 1986年3月 千葉大学 医学部卒業
- 1986年5月 千葉大学医学部附属病院 呼吸器内科 研修医
- 1987年9月 東京厚生年金病院 麻酔科 医員 (現JCHO東京新宿メディカルセンター)
- 1988年4月 千葉大学医学部大学院 (呼吸器内科 生化学)
- 1992年3月 千葉大学医学部大学院 修了
- 1992年10月 社会保険船橋中央病院内科 医長
- 1994年4月 東京都立府中病院 呼吸器内科 医員 (現多摩総合医療センター)
- 2008年3月 慶應義塾大学大学院 経営管理研究科 修了
- 2008年4月 国家公務員共済組合連合会
東京共済病院 腫瘍内科 (化学療法科兼務) 部長
- 2014年8月 放射線医学総合研究所 重粒子医科学センター病院 医長
- 2016年4月 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所臨床研究 クラスター重粒子線治療研究部、腫瘍臨床研究チーム 医長
- 2018年4月より現職

主な著書 『このまま死んでる場合じゃない!がん生存率0%から「治ったわけ」「治せるわけ」』 講談社 ほか



とうどう ともき

藤堂 具紀先生 「実用化に向けて動き出したウイルス療法最前線」

東京大学 医科学研究所 教授

[略歴]

- 1985年 東京大学医学部医学科 卒業。同年 東京大学脳神経外科 入局。
- 1989年 国立病院医療センター 脳神経外科 医師 (厚生技官)
- 1990年 ドイツ国 エアランゲン・ニュールンベルグ大学脳神経外科 研究員
- 1992年 国立病院医療センター (現 国立国際医療研究センター) 脳神経外科 復職
- 1994年 医学博士 (東京大学)
- 1995年 米国 ジョージタウン大学脳神経外科 研究員
- 1998年 米国 ジョージタウン大学脳神経外科 助教授
- 2000年 米国 ハーバード大学医学部マサチューセッツ総合病院 脳神経外科 助教授
- 2003年 東京大学医学部 脳神経外科 講師
- 2008年 東京大学大学院 医学系研究科 特任教授
- 2011年 東京大学医科学研究所 教授
- 2019年 現在にいたる

講演者プロフィール



なかむら ゆうすけ

中村 祐輔 先生 「がん消滅最前線! AI ホスピタルからネオアンチゲンまで」

公益財団法人 がん研究会 がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

[略歴]

- 1977年 大阪大学医学部 卒業
- // 大阪大学医学部 附属病院 (第2 外科) 勤務
- 1984年 医学博士 (大阪大学)
- 1987年 ユタ大学 人類遺伝学教室 助教授
- 1989年 財団法人 癌研究会癌研究所 生化学 部長
- 1994年 東京大学医科学研究所 分子病態研究施設 教授
- 1995年 東京大学医科学研究所附属 ヒトゲノム解析センター長・教授 (～2011年1月)
- 2001年 オンコセラピー・サイエンスを創設
- 2005年 理化学研究所 ゲノム医科学研究センター長併任 (～2010年3月)
- 2010年 独立行政法人 国立がん研究センター研究所 所長併任 (～2010年12月)
- 2011年 内閣官房医療イノベーション 室長
(我が国の医療イノベーションを推進するための戦略作成)
- 2012年 シカゴ大学医学部血液・腫瘍内科教授・個別化医療センター 副センター長
- 2017年 人工知能を医療に応用するフロンテオヘルスケア社の設立に尽力
- 2018年 公益財団法人 がん研究所がんプレジジョン医療研究センター 所長
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

原著英文論文は Nature17 編、Nature Genetics70 編、New England Journal of Medicine7 編、Science11 編、Cancer Research115 編など 1400 編以上、その引用件数は約 16 万回。h-index の世界 ランキングで 77 位 (2018 年 3 月 9 日現在)

がん撲滅サミット

第5回がん撲滅サミット公開セカンドオピニオン[®]

患者に寄り添うがん医療を確立せよ！立ち止まるな日本！！

～皆様のご質問にお答えするのは
がん医療最前線に立つ13人+αの名医～

〈順不同〉

ナビゲーター

なかみ としお
中見 利男 氏

第5回がん撲滅サミット
代表顧問、提唱者
作家・ジャーナリスト

■皆様へのメッセージ

本日、日本が世界に誇る医師の方々と皆様のコラボレーションで東京ビッグサイトを巨大なセカンドオピニオンエリアに変えましょう。患者の皆さんに寄り添うがん医療の確立を目指すためにも、皆様方のご質問を心よりお待ちしております。



せ と やすゆき
瀬戸 泰之 先生

東京大学 医学部附属病院 病院長
(胃・食道がん)

■皆様へのメッセージ

人口減少傾向にあるわが国において“がん撲滅”が最も重要な、かつ喫緊の課題となっています。そのためには、がんを根絶やしにする根治的治療法のさらなる確立が望まれます。

一方、がんを乗り越えた、いわゆるがんサバイバーの方々も大勢いらっしゃることも間違いありません。数多くの偉大な先人が根治的外科治療の開発・普及に取り組んでこられました。一時、拡大手術の方向に向かいましたが、現在は根治性を維持しつつ低侵襲な手術治療で治療せしめることが重要と考えられています。

また、がんを乗り越えて長生きできる方々も多く、術後のQOLも重要視されています。様々な治療法が開発されてきましたが、「悪いところは取る」という外科手術がもっとも効果的であることは今昔変わっていません。

がんの手術は切除が基本であり、そのための臓器機能低下のリスクが伴います。何とか、そのような機能低下リスクを最小限にとどめ、なおかつ根治性を維持できるような外科治療を目指しています。

また、発見された時点で、従来であれば不治と考えられた例でも、ネバーギブアップの心意気で集学的治療を行い、予後向上に努めています。そのような取り組みを紹介させていただきます。



とうどう とも き
藤堂 具紀 先生

東京大学 医科学研究所 教授
(ウイルス療法)

■皆様へのメッセージ

ウイルス療法は、がん細胞のみで増えることができるウイルスを感染させ、ウイルスが直接がん細胞を破壊する治療法です。しかしウイルスをがん治療の薬にするためには、ウイルスの遺伝情報を「設計」して、がん細胞ではよく増えても、反対に正常細胞では全く増えないウイルスを人工的に造ることが重要です。

私たちは、ヒトの口唇ヘルペスの原因として知られる単純ヘルペスウイルス1型 (HSV-1) を用い、安全にヒトに応用できる遺伝子改変型 HSV-1 を開発しています。特に、三重変異を有する第三世代のがん治療用 HSV-1 (G47 Δ) は、がん細胞に限ってウイルスがよく増えるように改良され、抗がん免疫を強力に引き起こすように造られています。

G47 Δはがん幹細胞をも殺すため、がん根絶的な治療になり得ます。

日本でもいずれ、G47 Δがすべての固形がんに使えるようになるでしょう。文字通りがん撲滅を目指したいと思います。

公開セカンドオピニオンでお会いしましょう！



まえだ こうたろう
前田 耕太郎 先生

藤田医科大学病院 国際医療センター センター長・教授
(大腸がん、直腸がん)

■皆様へのメッセージ

大腸がんは、いろいろながんの中でも、治療によって治る可能性の高いがんです。欧米諸国と同様に、我が国における大腸がんの死亡率は横ばいもしくは減少しつつあります。これはスクリーニングによる大腸がんの早期発見や日本の高度な治療技術によるところが大きいと考えられています。

大腸がんの治療では、発見された時点での病気の広がりが重要で、広がりの程度によって種々の治療が選択されます。また大腸がんは、がんのできる場所によって治療後にいろんな機能と大きく関連することがあります。現在では、多くの直腸がんで肛門を温存できることができるようになりましたが、場所やがんの程度によってはストーマ (人工肛門) を作らなくてはならないこともあります。

ただし、現在ではストーマがあっても普通に社会生活ができることをお伝えしておきます。

大腸がんは、多くの患者さんが治る病気です。多くの患者さんが、“大腸がんの”患者さんでなく、“大腸がんであった”患者さんです。

この第5回がん撲滅サミットの公開セカンドオピニオンでは、大腸がんに関する、すべてのご相談やご質問にお答えします。皆様のご質問をお待ちしております。

がん撲滅サミット



いもと しげる
井本 滋先生

杏林大学医学部附属病院 乳腺外科 教授、一般社団法人 日本乳癌学会 理事長
(乳がん)

■皆様へのメッセージ

乳癌は日本人女性の11人に1人が一生の間に罹患するとされ、毎年10万人の方が診断されています。乳癌は乳房を触って気がつくこともあります。マンモグラフィあるいはエコーによる検診を2年に一度お受けになれば早期の段階で診断されます。仮に乳癌と診断されても、手術、薬物、放射線を上手に組み合わせることで十分に治癒が期待できます。特に薬物はこれまでの抗がん薬、抗ホルモン薬、抗HER2薬に加えて、細胞周期を制御するCDK4/6阻害薬、DNA修復異常を標的とするPARP阻害薬、そして免疫チェックポイント阻害薬などの分子標的薬が導入されましたので、乳腺専門医や癌薬物療法専門医などの専門医の受診をお勧めします。

一方、BRCA遺伝子の異常から乳癌や卵巣癌が発症しやすいことが判明しており、この遺伝子の異常で10人に6人が乳癌を、10人に4人が卵巣癌を発症します。すでに発症された方とまだ発症されていない方を乳癌や卵巣癌から守る医療を進めることが課題でありミッションです。

公開セカンドオピニオンでは皆様のさまざまな疑問にお答えすることで、乳癌診療の今について理解を深めていただけますと幸いです。



さの けいじ
佐野 圭二先生

帝京大学医学部 外科学講座 教授
(肝臓がん、胆管がん、すい臓がん)

■皆様へのメッセージ

がんを撲滅できればそれは素晴らしいことだと思います。がんにかかったとき、闘うか闘わないか、闘うとしたらどのように闘うかを決めるのは皆さんです。

闘いたい人の「がんとの闘い」に少しでもお役にたつこと、闘わないと決めた人の「がんを闘わないことに対する不安」を少しでも減らすこと、ができればと思いつつ日々診療しています。

皆様のご質問をお待ちしております。



よね せ じゅん じ
米瀬 淳二 先生

公益財団法人 がん研究会有明病院 院長補佐、泌尿器科部長
(膀胱がん、腎臓がん、前立腺がん、精巣がん)

■皆様へのメッセージ

泌尿器科では、前立腺がん・膀胱がん・腎がん・精巣がんを中心とした泌尿器および男性生殖器のがんを扱っています。

がんの基本的な治療法は、手術、放射線、薬物療法となります。前立腺がんのように高齢者に多くホルモン治療がよく効くがんや、精巣がんのように若年者に多く薬物療法がよく効くがんなど、がん種によって様々な特徴があります。

近年の画像診断、新規薬剤、手術機器、放射線治療機器の進歩によって泌尿器がんの治療成績は向上しています。又病状や患者さんの希望に沿った治療法選択の幅も広がっています。

選択肢が多いほど、なにを選ぶか決断をしていかなければいけない場面が増えてきますので、迷ったときはこうしたセカンドオピニオンを活用していただきたいと思います。

皆様のご質問をお待ちしております。



そえ じま けん ぞう
副島 研造 先生

慶應義塾大学病院 臨床研究推進センター 副センター長
トランスレーショナルリサーチ部門長、教授
(呼吸器系がん)

■皆様へのメッセージ

本邦における肺がんによる死亡者数は年間7万人を超え、最も予後が悪いとされているがんの一つです。進行肺がんでは、抗がん剤による治療が中心となりますが、従来の抗がん剤による治療成績は決して満足のものとは言えない状況でした。

しかし、近年分子標的治療薬や免疫チェックポイント阻害薬など様々な新規薬剤が開発され、めざましい治療成績の改善が得られつつあります。

患者さん一人一人の、がんと共存しながら諦めず立ち向かっていく姿勢が、新たな可能性を生む力となります。

皆様のご質問をお待ちしています。

がん撲滅サミット



うえぞの やすひと
上園 保仁先生

国立研究開発法人 国立がん研究センター研究所 がん患者病態生理研究分野 分野長
(総合医療、漢方によるがん治療)

■皆様へのメッセージ

がん患者さんは、がんと闘う中でさまざまな痛み(体の痛み、心理的痛み、社会的痛み、スピリチュアルな痛み)に直面し、悩んでおられます。ひとつの症状がよくなっても、それだけではおそらく満足することにはならず、患者さんの全体を見つめ、患者さんの納得できる生き方に寄り添う必要があると考えます。

漢方薬は2種類以上、多いものでは18種類もの生薬でできた合剤です。患者さんの症状を改善するための「標的」も複数であることの多い薬です。そして漢方薬は患者さんの全体の症状を捉え、複数の標的に対応する薬として、また体に全体的に優しくはたらく薬のひとつであるといえます。この漢方薬が近年の研究技術の進歩に伴って、今までなぜ効くのかわからなかった作用のメカニズムが明らかになってきました。数千年前に作られ、長い歴史の中で今日までいわば安全性試験が行われてきた漢方薬は、先人からの脈々と続く経験知と科学的根拠に基づく作用メカニズムの解明とが合流し、いくつかの漢方薬は今や西洋薬の効果を補完できるところまで来ていると感じています。

公開セカンドオピニオンでは、がん治療で起こる副作用や、がんそのものが起こすつらい症状についての疑問、悩みなどをうかがい、漢方薬を通じて皆さまの疑問、悩みの解決にお役に立てれば幸いです。また皆さまからの疑問を持ち帰り、今後の漢方薬研究に生かすべくしっかりと前進してまいります。

亡き北島政樹永世大会長は漢方に力を注いでおられました。北島先生の御遺志を受け継ぐ思いで第5回がん撲滅サミットに臨みます。

皆様のご質問を心よりお待ちしております。



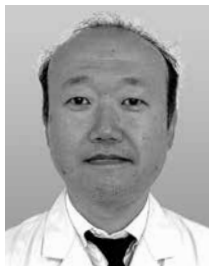
かまだ ただし
鎌田 正先生

神奈川県立がんセンター 重粒子線治療施設「i-ROCK」センター長
国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 放射線医学総合研究所病院 元病院長
(重粒子線治療)

■皆様へのメッセージ

最近、新しい放射線治療法としてご質問をいただく機会が多い粒子線治療ですが、保険診療あるいは先進医療として粒子線治療の適応となるがんの病態や治療の内容についてできるだけ正確な情報をお伝えできるようにいたします。

第5回がん撲滅サミット公開セカンドオピニオンでお会いしましょう。



きよまつ ともみち
清松 知充 先生

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター病院 下部消化管外科 診療科長
(大腸腹膜播腫ほか)

■皆様へのメッセージ

虫垂と卵巣の特殊な粘液産生腫瘍の破裂に伴う播種によって引き起こされる腹膜偽粘液腫という病態は、発症頻度も高くないために一般には広く知られておりません。

しかし、悪性度が一般の大腸癌に比べて低く、それゆえに腹腔内のみで病気が広がり、抗がん剤もあまり効かないとても厄介な病態です。現時点では外科治療が唯一の根本的治療となります。ただし、欧米では広く標準治療として認められている完全減量手術(腹膜切除)・術中腹腔内温熱化学療法も、日本ではなかなか認知が進まず高額な自費での治療で行わざるを得ないのが現状です。大きな侵襲を伴う手術ではありますが、少しでも低侵襲に安全に行われるように日々取り組んでおります。

一般的な大腸癌や直腸癌の播種についてはこれと同様には治療が難しいのが現状ですが、特に腹膜偽粘液腫については適切な治療のオプションにまでたどり着けずに亡くなってしまわれる方もまだまだいると思われまますので、少しでもこのような疾患について皆様に広く知っていただき、治療の普及が進んでいくことを願っております。

本日の公開セカンドオピニオンで皆様とお会いできるのを楽しみにしております。



おかだ なおみ
岡田 直美 先生

国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所病院 客員研究員、岐阜大学抗酸化研究室
(重粒子線及び集学的治療)

■皆様へのメッセージ

「不治の病に苦しむ患者さんを救うブラックジャックのような医師になりたい」そんな学生時代の頃の想いは、形を変えて叶いつつあります。

「治らない」と言われたがん患者さんも、正確な現状把握をし、治すための戦略をたて、さまざまな治療を組み合わせること(集学的治療)で治せる時代になりました。その背景には、一つは化学療法、手術、放射線、ラジオ波焼灼術や動注塞栓療法などの局所療法など、すべての分野で医療技術は目覚ましい進歩があります。でも、一番大きな要因は、それぞれの分野のまさにブラックジャックのような先生方と連携をとること、内科医でも、疑似的にその診療科のパフォーマンスを出すことができるようになったことです。

外科医じゃなくても優れた手術をして頂ければ、患者さんに外科の名医と同じ価値提供ができます。そして、みなさんが思っている以上に今の日本にはブラックジャックと呼べる優れた医師がたくさんいます。

ブラックジャックの本質は、「不治の病を治す医師」ではなくて、「患者さんから命を託された医師の本来あるべき姿」なのだと思います。優れた医療も患者さんとの強い信頼関係があつてこそそのものだと思います。

皆様のご質問を心よりお待ちしております。

がん撲滅サミット



こが よしひこ
古賀 良彦 先生

杏林大学 名誉教授
(食事と香りのブレインヘルス)

■皆様へのメッセージ

香りや味は理屈ぬきに人の感性に訴えます。

実は、香りや食事は脳の働きを円滑にして、患者さん本人ばかりでなく、ご家族のストレスを和らげ気持ちを癒すことができる素敵なチカラを持っています。いわゆる香りと食事のブレインヘルスです。

そんな話を脳科学的なエビデンスを示しながら、分かりやすくしたいと思っています。

第5回がん撲滅サミット公開セカンドオピニオンで皆様のご質問をお待ちしています。



おおさわ がくじ
大澤 岳史 先生

帝京大学医学部 緩和医療学講座 緩和医療専門医・講師
(緩和ケア・在宅医療)

■皆様へのメッセージ

緩和ケアの目的は生活の質(QOL)の向上です。

良いQOLって何でしょうか？

それは「心地よい」と感じられることではないかと思っています。

たとえ重い病気になっても「心地よい」と感じられれば良いなと思っています。

緩和医療や在宅医療にお悩みの皆様、どうぞご遠慮なくご質問をしてください。

少しでもお役に立てるよう、お答えいたします。

がん撲滅サミット・アフターケアプレゼンツ



なかむら ゆうすけ
中村 祐輔 先生

(ネオアンチゲンなどの免疫療法、ゲノム医療、AI ホスピタル)
公益財団法人 がん研究会がんプレジジョン医療研究センター 所長、
内閣府戦略的イノベーション創造プログラム・AI ホスピタルディレクター、
シカゴ大学 名誉教授、東京大学 名誉教授

■皆様へのメッセージ

ゲノム解析技術の進歩によって、がん医療は「プレジジョン医療」という大きな変換点を迎えている。プレジジョン医療とは、精密な、正確な医療と訳されるが、より精度の高い鋭敏な診断、より確率が高い予測法に基づく最適な薬剤の選択、より高い効果が期待される個別化免疫療法の提供などを含んでいる。さらに、隣国を含む海外では、ゲノム情報を利用した個々人の食事管理・運動管理・健康管理などのシステムが始まっている。ゲノム解析技術の進歩によって、血液や尿などのリキッド（液体）を用いたがん診断が始まりつつある。

また、全ゲノム解析や全エキソーム解析も安価で正確にできるようになったため、オーダーメイドのネオアンチゲン療法を提供することも開始されている。限定的な遺伝子パネルは、米国の最も基本的な公的保険でもカバーされている状況であるにも関わらず、日本ではそれらが今頃になって議論されると言った状況となっている。ゲノム医療に関しては、10年近く遅れていることが明らかだ。

予想をはるかに上回る速度で進歩が起こっているDNA解析技術を医療現場で取り入れ、それらを提供することが、現在の閉塞したがん医療環境を変えるために不可欠である。がんを早く見つめるために、個々のがん患者の個性を正確に把握して最適で安全な治療法を提供するために、そして、新しいうねりとなっている個別化免疫療法推進のためにも、広い範囲でのゲノム情報の活用が求められる。

標準療法の壁を突き破り、患者さんに新しい可能性・希望を提供することに注力することが、医療の責任ではないのか！これが今、私が日本に伝えたいことです。

皆さんと共に1日も早く患者の権利を確立して、がん医療にイノベーションを起こしたいと思います。

本日のがん撲滅サミット・アフターケアプレゼンツでお会いしましょう。

がん撲滅サミット

がん撲滅サミット・アフターケアプレゼンツ



もりやす ふみのり
森安 史典 先生

医療法人順和会 山王病院 がん局所療法センター センター長
国際医療福祉大学 教授、東京医科大学 名誉教授
(ナノナイフ治療)

■皆様へのメッセージ

ナノナイフ治療とは、全身麻酔下に超音波とCT画像を見ながら、2～5本の電極針を癌部に刺入し、先端から3,000ボルトで電流を流し、癌細胞を死滅させるという治療法です。

山王病院では、臨床研究として、2016年から130例の膵癌にナノナイフ治療を行っています。

本年4月から、ナノナイフ治療は肝癌に対して先進医療に認められました。膵癌に対しても適応追加になるよう準備をしています。

私が2000年に京都大学から東京医科大学に教授として異動・着任したときから、北島政樹先生から多くのご指導をいただきました。また、現職の山王病院がん局所療法センターでは、国内外から北島先生を頼って来院された膵癌の患者様を、北島先生と一緒に診させて頂き、ナノナイフ治療前後の外科サイドからのバックアップ態勢で支えていただきました。深く感謝申し上げますとともに、ご冥福をお祈りいたします。

そのうえで皆様とがん撲滅サミット・アフターケアプレゼンツでお会いできるのを心より楽しみにしております。

■サプライズゲスト



がん撲滅サミット

がん撲滅日米共同宣言 2019

1961年5月、J.F.ケネディ大統領が「ニューフロンティアを目指そう」とアポロ計画を提唱した結果、人類は月面に着陸することができた。そして、21世紀の現在も米国、ロシア、中国などの大国は月や火星を目指し、日夜しのぎを削っており依然として、そのニューフロンティアは宇宙にあると言っても過言ではない。

ケネディ大統領というたった一人の人間が約60年前に行動を起こそうと呼びかけたことで宇宙はニューフロンティアに変わり、そこから人類が受けた科学的技術的恩恵は計り知れないものがある。

しかし、もう一つのニューフロンティアが間違いなく地球上に存在していることを我々人類は忘れてはいないだろうか。それこそが、『がん撲滅』という前人未到の大地である。

人類とがんの死闘は約4000年前から続いているが、悲しいかな人類はがんを撲滅するどころか、圧倒されつつある状況である。たとえば、日本では2人に1人が罹患し、がん患者のうち3人に1人が死亡している。一方、アメリカでも2019年では176万2,450人が、がんを罹患し、死亡者は60万6,880人と予測されている。近年になって日米両国国民に、がんの予防と治療に対する考え方が浸透してきたとはいえ、がんは依然として人類にとって深刻な問題であることに変わりはない。

見回せば各国では気鋭の研究者が次々と先端医療を生み出している。しかし、その一方で子どもたちや前途ある若者、子育てに励む主婦や一家の大黒柱が次々にがんによって打ちのめされ、天に召されているのである。

果たして、我々人類は、このままたんに打ちのめされ続けたままで良いのだろうか。そのツケは必ず次世代の子どもたちに回ってくるというのに、である。

振り返ってみよう。我々の先人は古にペストや天然痘、結核など不治の病を克服し、あるいは撲滅してきたではないか。不可能と思えることは、やがて困難に変わる時が来る。そして困難がやがて可能へと姿を変えてきたことは、これまで先人が証明してきたことである。

であるならば、今こそ先人に学ぼうではないか。現在、不可能と思われている『がん撲滅』というもう一つの地上のニューフロンティアを目指そう。

「世界は1人のために、1人は世界のために」

これが人類共存の精神である以上、小児がんやすい臓がんをはじめとするあらゆるがんに苦しむ人々や次世代の人類を救うため、我々もチャレンジを今から開始しよう。

幸い日本では2013年9月、一人の作家によって「今こそオールジャパンでがんを撲滅しよう！」とがん撲滅サミットが提唱され、2015年6月9日、皇室、政府、財界、医療者、市民など心ある人々が集い、そして立ち上がり、そのアクションは本年度で5回目を迎えることとなった。

一方、アメリカでも「難病やがん克服のために再生医療を活用しよう」と公益資本主義を目指す一人の実業家が呼びかけたことによって、同様に政府、国連、財界、医療者、市民ら勇気ある人々が集い、声を上げ始めている。

この気運を更に高めていこう。約4000年というはるか太古より続いてきた人類とがんと闘いに、今こそ終止符を打とう。

そのために我々は、まず日本から始まったがん撲滅への挑戦をアメリカの勇気ある人々と連携して、世界に医療のパラダイムシフトを起こそうではないか。

かつてアポロ計画を主導し、深遠なる宇宙を目指し、見事にこれを成し遂げたアメリカの偉大なる友人たちと共に、今度は人類の前に立ちはだかる、がんという巨大な壁に戦いを挑もうではないか。

古代に少年ダビデが、ゴリアトという巨人を倒すためにたった一人で立ち上がったように、今こそ日米の勇気ある友人よ、恐れることなく巨大な敵に立ち向かおう。

我々はケネディ大統領のような偉大なリーダーにはなれないかもしれない。だが、それでも臆することはない。なぜなら我々は名声よりもチャレンジする勇気を失うことの方を恐れるからだ。

今、我々はがん撲滅への挑戦を開始するため次のアクションを起こしたい。

- ① 今年、東京で開催される第5回目の大会を迎えるがん撲滅サミットは総理官邸、厚労省などの政府や日本経済団体連合会などの経済界、国立医療機関、大学病院などの医療者と共にがん撲滅に向けたアクションを重ねており、現在はがんを撲滅するため『先端高度がん医療センター』の構築やがん予防薬剤の開発を含めた新規治療の開発や実用化を政府に提言するなど、具体的な提言活動を行っている。

今後はオールジャパンで更なるがんの撲滅に向けてアクションを続けていく。

- ② アメリカでも上記のアクションを起こすため、政府をはじめNIH、NCIなどの政府系医療機関及び米国がん学会や米国腫瘍学会のような学会や医療機関、患者、家族などの市民に対してオールアメリカでがん撲滅に向けて立ち上がり、日本と共にアクションを起こしていただくことを期待したい。

- ③ 日米双方の政府と共に、学会、研究機関、医療機関などと共に民間主導によってがんの撲滅に向けた情報交換、及び共同研究ネットワークの構築。

体と経済に負担の少ない早期診断技術やプレジジョン医療、ゲノム医療のさらなる推進を働きかけていこう。

- ④ 患者の権利の確立に向けて日米で戦略的アクションを起こそう。
- ⑤ がん予防のためのワクチンや薬剤の開発と実用化など、がん医療のトレンドを改革するために緊密に連携しながら前進しよう。
- ⑥ 将来的に人類の叡智を結集するために医療版ダボス会議の開催を目指そう。

こうした具体的目標を一つ一つ実現するためにも今、行動を開始しよう。2025年までに持ち運びのできる副作用のない服用型の安価ながん予防薬を世界で開発しよう。そして2030年をがん撲滅のゴールにしようではないか。そのために日米両国をはじめとする我々有志は、AIと共に手を携え、がん撲滅に向けた世界的なネットワークの確立に向けて、記念すべき第一歩を、ここ東京とサンフランシスコの地から互いに踏み出すものとする。

『攻めなければ負けしかない中、がん撲滅を目指すぐらいの意気込みは必須と感じます』

これは日本で開催された第1回がん撲滅サミットにおける高円宮妃殿下のお言葉である。我々は、このお言葉を胸に刻みつつ未来に向かって力強く前進していくことをここに誓う。

2019年11月17日

アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原 丈人
シカゴ大学 教授 マーク・ラテイン
第5回がん撲滅サミット 代表顧問・提唱者 中見 利男

がん撲滅サミット

“Japan-US joint declaration for cancer eradication 2019”

As a result of President John F. Kennedy's advocacy of the Apollo program, an extension of his “New Frontier” program, man was able to land on the moon. Even today in this 21st century, the United States, Russia and China still engage in fierce competition to land on the Moon and Mars. It is no exaggeration to say that the New Frontier is the universe.

One man, President Kennedy, acting 60 years ago, turned the universe into a new frontier, and the scientific and technological benefits to humanity are immeasurable.

However, humanity may be overlooking another New Frontier: "cancer eradication".

The struggle to the death between mankind and cancer has been ongoing for about 4,000 years, but alas mankind is overwhelmed by cancer, with little progress towards its eradication. For example, one in two people in Japan will get cancer in their lifetime, with one in three patients dying. In the United States in 2019, 1,762,450 people are affected with cancer, and the number of death is estimated at 600,880. In recent years, public awareness regarding the prevention and treatment of cancer has spread in Japan and the United States, however, cancer remains a serious disease for mankind.

Around the world, researchers develop advanced medical treatments one after another. On the other hand, children, young people, husbands and wives continue to be overwhelmed by cancer, and are called to heaven.

We wonder if we have no choice but to be overwhelmed by cancer even though children of the next generation inevitably must pay a high price for it.

Let's look back. Medical pioneers in the past eradicated previously incurable diseases such as plague, smallpox, and tuberculosis.

Even though something now seems "impossible," time will soon change this to "difficult". And the "difficult" will eventually change to "possible". This is what our predecessors have proven so far.

Therefore, let us learn from our predecessors now. Let's aim at the other new frontier called “cancer eradication” which is currently considered impossible.

“The world for one, one for the world”

In the spirit of coexistence of mankind, let's start our challenge now so we can save people suffering from all kinds of cancer.

Fortunately, in Japan, one writer posited that "Now is the time to eradicate cancer by combining efforts from all stakeholders in Japan!" The Cancer Eradication Summit was proposed in September 2013. Then the imperial family, the government, the business world, medical professionals, and citizens got together for the first Summit on June 9, 2015. The fifth summit will be held in this year.

In the United States, one businessman who focuses on Public Interest Capitalism proposes, "Let's utilize regenerative medicine to overcome incurable diseases and cancer". He has inspired courageous people from the government, the United Nations, the business world, medical professionals and citizens to get together and raise their voices.

Let us raise this momentum and put an end to the fight between humanity and cancer which has consumed us since 4000 years of ancient times.

To that end, let's bring about a paradigm shift in medicine in the world, in collaboration with achievements in cancer eradication in Japan, together with the courageous medical community in the United States.

Let's challenge the huge wall of cancer that stands in front of humanity with friends in the United States, the country that led the Apollo program and opened a new universe

Just as young David stood alone to defeat Goliath, let's face a huge enemy without fear.

We might not ascend to the level of leadership as President Kennedy, but there is no reason to hesitate. We should be more afraid of losing courage to meet this challenge than losing face.

Now, we shall take the next action to challenge the eradication of cancer.

1) The 5th Cancer Eradication Summit, being held in Tokyo this year, is taking a series of actions to eradicate cancer, together with the government, including the Prime Minister's office, the Ministry of Health, Labor and Welfare and the business community including the Federation of Economic Organizations, the national medical institutions, and university hospitals.

At present, summit members are making specific proposals such as establishing an "Advanced Center for Cancer Medicine" and recommending the development and practical use of new treatments including cancer preventive medicines.

From now on, we will continue collaborating with all stakeholders in Japan to further the eradication of cancer.

2) In the United States, we expect the US Government, government medical institutions such as NIH and NCI, academic societies such as the American Cancer Society and the American Oncology Society, medical institutions and citizens including cancer patients and their families, will stand up and take action for eradication together with Japan.

3) Let's establish networks for information exchange and create cooperative research for the eradication of cancer by initiatives with the private sector including academia, research institutes, and medical institutions, and in concert with the governments of both Japan and the United States. Let's promote early diagnostic technology that is less burdensome on the body and the economy, precision medicine, and further promotion of genomic medicine.

4) Let's take strategic action in both Japan and the United States to establish rights for patients.

5) Let's move forward to cooperate closely to reform medical trends in cancer, including the development and practical use of vaccines and a global information sharing platform for cancer prevention.

6) Let's aim to hold a medical version of the Davos Conference in the future to integrate the wisdom of mankind.

In order to achieve these concrete goals one by one, our people from Japan and the United States should take action to develop cancer preventive medicines with no side effects by 2025, and to achieve cancer eradication on earth by 2030. To that end, we, volunteers in Japan and the United States, will work together with AI and take a memorable first step both in Tokyo and in San Francisco to establish a global network for the cancer eradication.

"Since I believe offense is the best defense and doing nothing will be our defeat, I would like to emphasize the importance of strong resolve to pursue the total destruction of cancer." This is the honorable message by Her Imperial Highness Princess Takamado from the Imperial Family at the first Cancer Eradication Summit. We commit here that we will make progress by inscribing this honorable message in our hearts.

October 29th, 2019

George HARA, Chairman of the Board, Alliance Forum Foundation
Dr. Mark J. RATAIN, Department of Medicine, University of Chicago
Toshio NAKAMI, Representative adviser/advocate, The 5th Cancer Eradication Summit

ごあいさつ

がんは、我が国の死因第一位を占め、全死亡の3人に1人（毎年30万人以上）ががんで死亡しています。男性は2人に1人、女性は3人に1人ががんにかかります。10年後には3人に2人ががんにかかり、2人に1人ががんで死亡、特にがん患者の70%は65歳以上の高齢者で占められると推測されています。正に、日本は「世界一の長寿国」になった結果、「世界一のがん大国」となりました。

公益財団法人広島がんセミナーは、国際平和都市、広島市において、国際シンポジウム、県民公開講座や先端のがん薬物療法研究会等の学術集会を開催し、がんに関する最新情報を発信すると共に、がん医療従事者及びがん研究に関連する学会等への助成支援を行うことにより、がんの学術振興と地域医療の発展に寄与することを目指しています。本財団の事業活動が高齢者のがん医療の向上とがん医療従事者の育成に繋がることを心から願っております。

今後共、本財団の活動にご理解頂き、御支援とご協力を賜ります様お願い申し上げます。

尚、第8回先端のがん薬物療法研究会「がん個別化治療の展開」を2020年1月12日、グランドプリンスホテル広島にて開催します。

遺伝子パネル検査に基づくがん個別化治療の最前線について、6名のエキスパートが講演します。

詳細については、ホームページ (<http://h-gan.com/wordpress/>) をご参照して下さい。

公益財団法人 **広島がんセミナー**

理事長 田原 榮一

東レによるがん領域の開拓

先端材料の ライフイノベーション 分野展開



HugFit[®]

がん研有明病院と共同で、乳がん患者様の術後の放射線皮膚炎をケアしつつ快適に過ごせる患者様向け衣料を上市しました。
(2016年)

乳がん患者様向け
ハーフトップ

東レのコア技術

有機合成化学
高分子化学
バイオテクノロジー
ナノテクノロジー



次世代の革新的がん治療法として世界中で注目・検討されているがんの抗体医薬に着目し、研究・技術開発に取り組んでいます。

先進医薬

がん抗体医薬の開発

先制医療

(がん早期診断システム)

DNA チップを用いて
開発



13種類のがんと認知症を対象に、国立がん研究センターなどと連携。国内早期の診断薬申請を目指すと共に、米国への展開も予定しています。

life
innovation

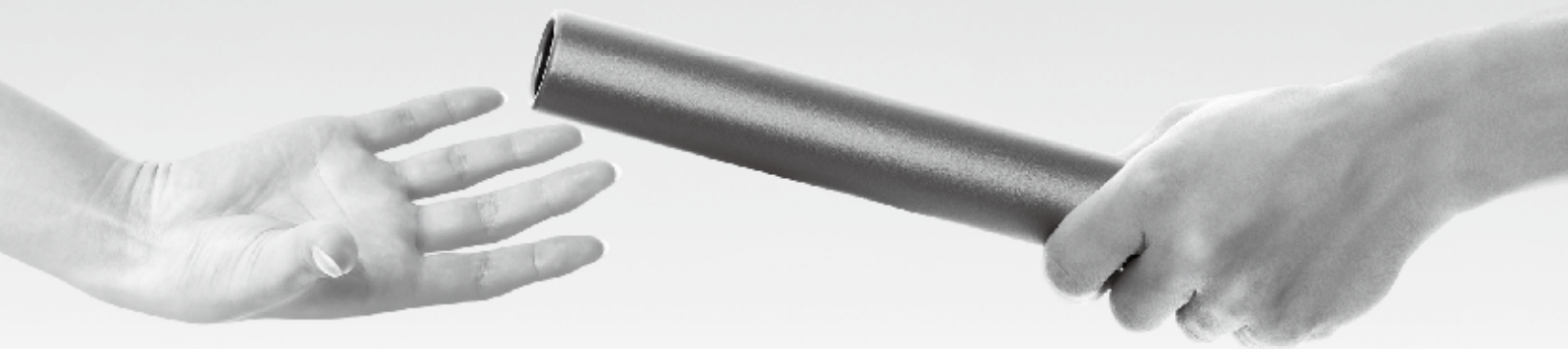
東レのライフイノベーションへの取り組みには、2つのカテゴリーがあります。
1つめは、東レのさまざまな事業分野の**先端材料**を、医薬品・医療機器用資材、先進診断装置用部材などの**ライフイノベーション分野**へ展開すること。
2つめは医療分野で、**先進医薬**と、病気を早期に発見し治療してしまうという、**先制医療**がキーワードです。

<http://www.toray.co.jp/technology/toray/life/>

東レは、がん撲滅サミットを支援します

SDGsで、 未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、
持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標



SDGsとは

2015年9月の国連サミットで150を超える加盟国首脳に参加のもと、全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた「持続可能な開発目標 (Sustainable Development Goals)」のことで、SDGsはすべての国の社会課題を対象とした17のゴールと、その課題ごとに設定された達成基準である169のターゲットから構成されます。このゴールとターゲットによって、包括的で持続可能な社会の構築を目指すものです。

持続可能な地球環境

事業活動における環境負荷低減への取組を進めるとともに、気象災害による被害や損失を軽減するためのサービスの提供を通じて、気候変動の緩和と適応に貢献します。

関連する主なSDGs	主な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング

安心して暮らせる社会

SDGsの理念である「誰一人取り残さない」を実践するべく、年齢や性別等に関わらず、高品質なサービスを、より多くのお客さまに提供します。

関連する主なSDGs	主な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応

活力のある経済活動

多様な環境変化にともない発現する新たなリスクへの対応策を提案し、サステナブルな経済活動を支えます。

関連する主なSDGs	主な取組
	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応 (自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。
*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会

再生医療・細胞治療の新拠点、 次世代型CPFオープンイノベーションラボ「セラボ殿町」



ダイダンの再生医療分野への新たな挑戦

ダイダンはこれまでの技術・知識・経験・実績を生かして、再生医療・細胞治療の産業化拠点「ライフイノベーションセンター」内に、次世代型のCPF（細胞培養加工施設）を備えた「セラボ殿町」を開設しました。セラボ殿町はオープンイノベーションラボとして、再生医療の研究や実用化、それを支える機器開発やサービスを提供される方々にお集まりいただき、より良い生産プロセスを作り出していくための実証、協業の場です。研究者や関連組織・企業が少しでも早く成果を出せるよう、最適な環境を提供致します。

ダイダン株式会社
<https://www.daidan.co.jp/>



【セラボ殿町・イノベーション本部 再生医療推進部】

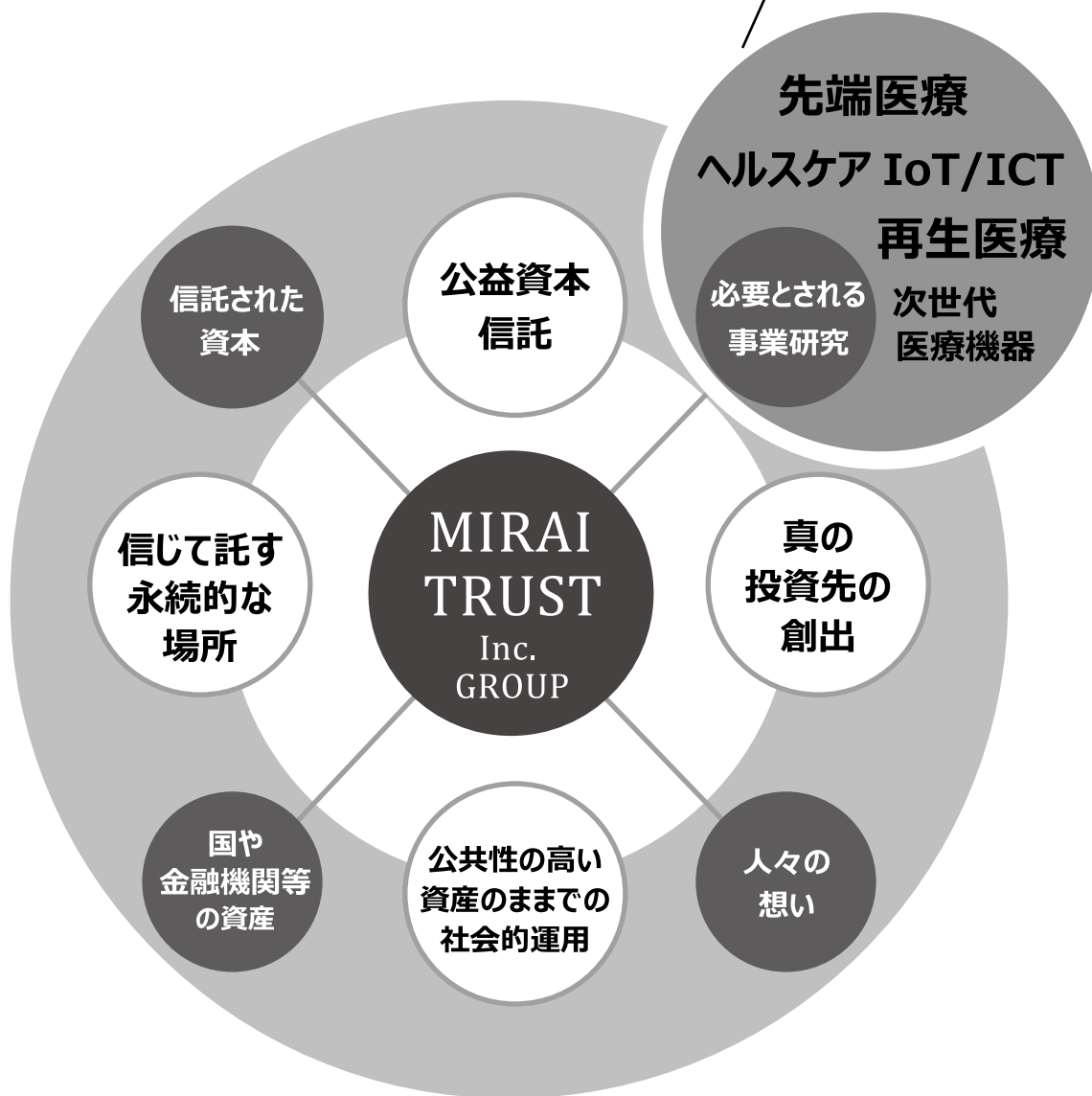
〒210-0821 神奈川県川崎市川崎区殿町 3 丁目 25 番 22 ライフイノベーションセンター R407
TEL: 044-276-5010 FAX: 044-280-0036 e-mail: cellab-info@daidan.co.jp



株式会社 エフ・アール・シー・ジャパン

未来トラスト株式会社
MIRAI TRUST INC.
Toward The Future

がん撲滅 × MIRAI TRUST Inc.



“ 資本の信託による持続的研究支援 ”

未来トラスト株式会社およびグループ各社は
「天寿を全うする直前まで安心健康である」社会の実現へ向け
信託を通じた金融の仕組みづくりに取り組んでいます

<https://miraitrust.co.jp>



さまざまなニーズに合わせた
総合不動産会社です



ジャパン エステート株式会社

本 社 〒541-0042
大阪府中央区今橋2丁目5番8号トレードピア淀屋橋16F
TEL : 06-6233-3188 FAX : 06-6233-3187

東京支社 〒104-0061
東京都中央区銀座1-2-4 サクセス銀座ファーストビル6F
TEL : 03-5159-1238 FAX : 03-3564-0040
URL : <http://www.jpe.co.jp>

生命保険協会は

超高齢社会を支えていくために
様々な取り組みを進めています。



相談・苦情受付

【生命保険相談所の運営】

生命保険相談所では、生命保険に関する相談や苦情について、お客様の疑問や悩みを整理し、解決に向けたアドバイスを行います。



高齢者への情報提供

【高齢者向け情報冊子の発行】

高齢者を対象とした、保険の加入から受取りに至るまでのあらゆる場面に関する情報や留意点をまとめた情報冊子を発行しています。

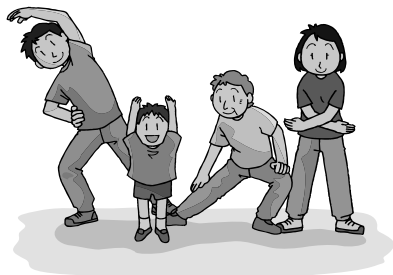


特殊詐欺の注意喚起

【被害防止啓発ポスターの作成】

オレオレ詐欺や架空請求詐欺など特殊詐欺被害防止のための啓発ポスターを作成し、注意喚起を行っています。

健康増進啓発活動



【健康寿命の延伸に向けた啓発活動】

健康寿命の延伸に向けた啓発活動を積極的に推進するために、全国各地のウォーキング大会に協賛しています。また、健康づくりに役立つ情報冊子の配布なども行い、健康増進に対する意識の向上に取り組んでいます。

生命保険協会ホームページでは、
様々な情報を掲載しています。
是非ご利用ください。

<http://www.seiho.or.jp>

生命保険協会

検索



日本建設業連合会は 社会貢献活動を推進しています

アイサワ工業(株)	青木あすなろ建設(株)	あおみ建設(株)	(株) 浅沼組
(株) 安藤・間	伊藤組土建(株)	岩田地崎建設(株)	(株) エム・テック
(株) 大林組	(株) 大本組	(株) 奥村組	オリエンタル白石(株)
鹿島建設(株)	鹿島道路(株)	株木建設(株)	北野建設(株)
(株) 熊谷組	(株) 鴻池組	五洋建設(株)	佐藤工業(株)
三幸建設工業(株)	清水建設(株)	ショーボンド建設(株)	西武建設(株)
(株) 銭高組	大成建設(株)	大成ロテック(株)	大日本土木(株)
大豊建設(株)	高松建設(株)	(株) 竹中工務店	(株) 竹中土木
鉄建建設(株)	東亜建設工業(株)	東急建設(株)	東洋建設(株)
戸田建設(株)	飛島建設(株)	(株) ナカノフドー建設	西松建設(株)
(株) N I P P O	日本国土開発(株)	日本道路(株)	(株) 長谷工コーポレーション
(株) ピーエス三菱	(株) 福田組	(株) フジタ	(株) 不動テトラ
(株) 本間組	前田建設工業(株)	前田道路(株)	松井建設(株)
(株) 松村組	三井住友建設(株)	みらい建設工業(株)	村本建設(株)
寄神建設(株)	若築建設(株)		

日建連「社会貢献活動協議会」構成 58 社

魅力的なまちづくりの推進や
豊かな住生活の実現を通じ、
日本経済の持続的な成長に
貢献してまいります。

昭和 38 年に社団法人として設立された不動産協会は、国民生活の向上と日本経済の持続的な成長に向け、土地、都市、住生活などに関わる諸問題について、様々な政策提言を行うとともに、調査・研究、社会貢献活動等に取り組んでおります。

日本経済が緩やかな回復基調にある中、今後も、国際競争力のある大都市の創造、魅力的なまちづくりの推進、豊かな住生活の実現、環境への取組み等を通じ、持続的な成長の実現に貢献してまいります。

一般社団法人 **不動産協会**

理事長 菰田 正信

ひとつの新薬が生まれるたび、
世界は少し幸福になる。



いまだ克服できていない病気や、
さまざまな患者さんの満たされない想い。
いま、必要とされている薬は、一様ではありません。
私たちは独自の研究開発を積み重ねながら、
世界のバイオ企業や研究機関とも積極的に手を結び、
これまでにない新薬の開発に全力で取り組んでいきます。
人々の幸福に少しでも力になれると信じて。

願いをこめた新薬を
世界のあなたに届けたい。
小野薬品



気持ちよく快適に「いやしと安心の空間づくり」 病院・高齢者
施設向け商品 **TOTO**

	<p>ひろひろ 動作空間</p> <p>手首まで ラクに洗える</p> <p>42°</p> <p>23°</p> <p>腰にかかる 筋負荷 約40%低減</p> <p>750mm</p> <p>850mm</p>		<p>一般トイレにも 設置しやすい</p> <p>550mm</p> <p>340mm</p> <p>340mm</p>
<p>施設内の感染予防に配慮した 手洗いしやすい高さや形状 スタッフ用手洗器</p> <p>8角形が使いやすいユニット オクタゴンシリーズ</p>		<p>公益社団法人 日本オストミー協会推奨商品 コンパクト オストメイトパック</p> <p>ベッドの横に後付できる ベッドサイド水洗トイレ</p>	

商品のお問い合わせは TOTOお客様相談室 ☎ 0120-03-1010 受付時間 9:00~17:00(夏期休暇・年末年始を除く) <https://jp.toto.com>

漢方は、自然から。

漢方は、たくさんの人の手と想いを経て生まれます。

長い年月をかけて、樹木が豊かな山を育み、その山で水が蓄えられる。

山で磨かれた水が、生薬をつくるための畑に注がれ、
生産農家のみなさんによって大切に育てられる。

人が本来持っている自然治癒力を高め、生きる力を引き出すことを目的とした
漢方にとって、「自然」はいのちを強くする力そのものです。

その力をそこなうことなく、すべての人が受け取れる形にして届けたい。
そして健康に役立ててほしい。

100年以上、自然と向き合いつづけてきた私たちツムラの願いです。

自然と健康を科学する。漢方のツムラです。



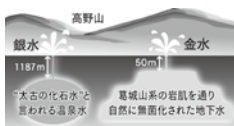
www.tsumura.co.jp

資料請求・お問い合わせは、お客様相談窓口まで。

[医療関係者の皆様] 0120-329-970 [患者様・一般のお客様] 0120-329-930

受付時間 9:00～17:30(土・日・祝日は除く)

「ミネラルウォーター 月のしずく」
届けたいののは
「いのち」とつながるお水です。



「月のしずく」は、和歌山県橋本市神野々にある天然温泉施設「ゆの里」に湧く「金水」と「銀水」と呼ばれる2つの天然水をブレンドしたミネラルウォーターです。

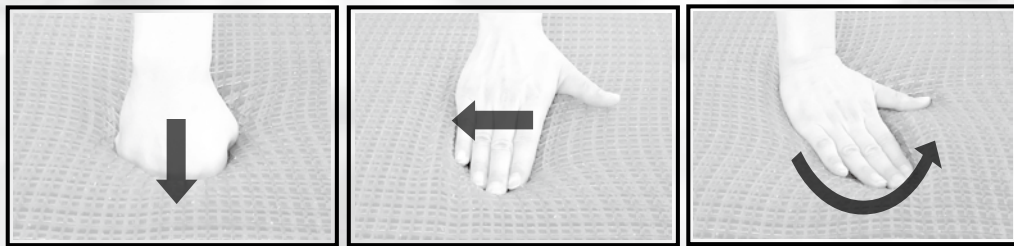
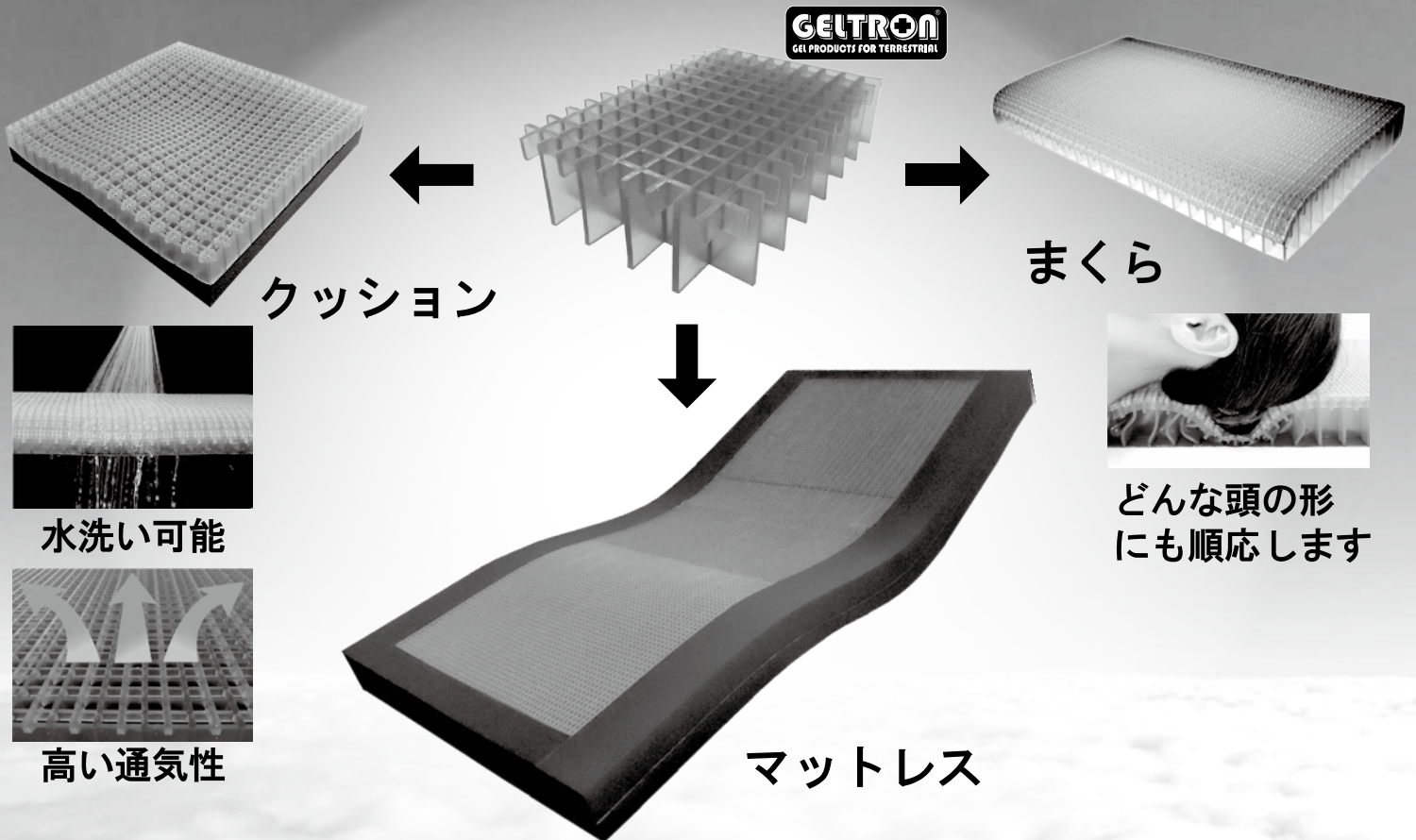


お問い合わせは

TEL 0736-32-2929 FAX 0120-34-2326

「ゆの里」公式ホームページ www.spa-yunosato.com

「床ずれ防止」を実現する素材
多層一体格子型ジェル「ジェルترون」で
介護する人・される人、双方をサポートします



体圧分散性に優れ、ずれ、ねじれの力を吸収することにより血流を安定させ
熟睡率の向上と高い床ずれ防止特性をつくり出すことに成功しました。
弊社は1990年頃のウォーターベッドブームを推進したメーカーです。
その経験と技術を基にジェルترونを開発いたしました。



株式会社パシフィックウエーブ
〒624-0036 京都府舞鶴市京田 187-1
TEL:0773-75-8688 <http://geltron.jp/>

パシフィックウエーブは がん撲滅サミットを応援しています



ALSO Kの介護

ご家庭の警備からご高齢者のみまもり、デイサービスをはじめとした介護サービスまで。
ライフステージに合わせた安全・安心を、ALSO Kはワンストップで提供します。

展開している主なサービス

- 介護付有料老人ホーム
- グループホーム
- 訪問介護
- デイサービス
- 居宅介護支援
- 訪問医療マッサージ
- 福祉用具販売、レンタル



●訪問医療マッサージ

運動機能に制限があり、病院でのリハビリが十分に受けられない方や、身体介護が必要な方などを対象に、身体機能や精神機能の維持・向上を目的として、国家資格を持った施術師（マッサージ師）がご自宅や入居施設に訪問し、医療マッサージを施すサービスです。

公的医療保険（健康保険）が適用となる為、健康保険の自己負担割合のみでご利用いただけるほか、介護保険の限度額を気にせずにご利用いただけます。

（健康保険の適用には、医師の同意が必要です。）



●福祉用具販売、レンタル

ALSO Kは安全で安心な福祉用具を提供するために、福祉用具専門相談員とメンテナンス作業員が品質向上に取り組んでおります。



●車いす
ノーパンクタイヤを採用した軽量アルミ製の車いすです。
ALSO Kはレンタル後のアフターサービスやメンテナンスまで対応。



●ケアスロープ
コンパクトに折りたたみ、狭い間口・高い段差に簡単に設置できるスロープです。

24時間
365日受付

☎ 0120-966-683

ALSO K介護サービス
サポートダイヤル



環境事業

土木

自然と社会と心の調和そして融合

建築

型枠



株式会社 オキ・コーポレーション

〒210-0821

神奈川県川崎市川崎区殿町 2-3-15

TEL 044-280-1701 FAX 044-280-1702

URL www.oki-cp.co.jp



代表取締役会長 沖山 朝紀
代表取締役社長 沖山 純子

TH総合法律事務所は、新宿駅直結の新宿センタービルに所在する、弁護士10名を有する法律事務所です。

所属弁護士の高橋淳(第5回がん撲滅サミット法律顧問)および光野真純は、がん患者及び良心的ながん専門医を法的観点からサポートする業務を行っております。

取扱業務

- ◆ がん患者の休職および退職に関する法律問題
- ◆ 不当に高額な診療請求等についての対応
- ◆ クレイマー患者等に対する対応
- ◆ 医療法人の経営等に関する法律問題(労務問題を含む)
- ◆ がん患者及び家族に対するサポート
- ◆ その他、がん関連法務全般



第5回がん撲滅サミット 法律顧問
弁護士・弁理士 高橋 淳
(東京弁護士会所属)

1998年弁護士登録。
2003年日弁連知的所有権委員会(現:日弁連知財センター)委員に就任。
2005年経済産業省主催の「営業秘密の適正管理のあり方に関する研究会」の委員に就任。
2005年特許庁工業所有権審議会臨時委員に就任。
2008年日弁連知財センター委員に就任。
2014年工業所有権審議会試験委員(弁理士試験)に就任。



TH 総合法律事務所

TH Law Office

〒163-0631 東京都新宿区西新宿1-25-1 新宿センタービル31階

TEL:03-6911-0410 FAX:03-6911-0411



JAPAN AIRLINES

OLYMPUS®



岡山県極真空手道連盟



協賛企業、団体、ご寄付者一覧（順不同）

東レ株式会社 様	三井住友海上火災保険株式会社 様
日本航空株式会社 様	ALSOK 総合警備保障株式会社 様
オリンパス株式会社 様	株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 様
ダイダン株式会社 様	未来トラスト株式会社 様
小野薬品工業株式会社 様	ジャパンエステート株式会社 様
株式会社ツムラ 様	株式会社パシフィックウェーブ 様
TOTO 株式会社 様	TH 総合法律事務所 様
グラクソ・スミスクライン株式会社 様	株式会社オキ・コーポレーション 様
株式会社重岡 様	岡山県極真空手道連盟 様
一般社団法人 日本建設業連合会 様	山内千里 様
一般社団法人 不動産協会 様	株式会社ココ花 花枝聡 様
一般社団法人 生命保険協会 様	飯田有子 様
一般社団法人 日本損害保険協会 様	佐藤薫子 様
	第5回がん撲滅サミット参加者の皆様

他の皆様、ご支援本当にありがとうございました。

謝辞

皆様方のご支援に心より感謝申し上げます。

亡き北島政樹先生はじめ 創立5周年祈念～第5回がん撲滅サミット開催に対しまして多大なるご支援をいただいた牧野徹先生、二川一男先生、ご来賓、ご講演をいただいた皆様をはじめ、内閣総理大臣 安倍晋三先生、内閣官房長官 菅義偉先生、前厚生労働大臣 根本匠先生、文部科学省科学技術・学術政策局長 菱山豊様、国立研究開発法人 日本がん研究開発機構理事 梶尾雅宏様、アライアンス・フォーラム財団 代表理事 原文人先生、丹治幹雄様、磯野昌英様、熊地叔子様、公益社団法人日本医師会 会長 横倉義武先生、一般社団法人 日本医学会連合会 会長 門田守人先生、国立研究開発法人 国立がん研究センター 理事長 中釜斉先生、東京都知事 小池百合子先生、志方俊之先生、熊本県知事 蒲島郁夫先生 ほか、大会パンフレットにメッセージをお寄せいただいた皆様、細川恒先生、厚生労働省大臣官房総括審議官 佐原康之様、厚生労働省 審議官、内閣官房健康・医療戦略室 次長 大坪寛子様、厚生科学課長 佐々木昌弘様、がん・疾病対策課長 江浪武志様 ほかの皆様、公益社団法人日本医師会 秘書課課長 秋澤光治様、藤田医科大学病院 国際医療センター センター長、教授 前田耕太郎様、山内千里様、番匠幸一郎様、國重博史様、谷田部二郎様、ライオンズクラブ国際協会第99代国際会長、社会医療法人 厚生会木沢記念病院理事長 山田實紘先生、佐治重豊先生、山形大学医学部参与 嘉山孝正先生、株式会社エフ・アール・シー・ジャパン 代表取締役社長 清水美津様、取締役 濱田充様、ジャパンエステート株式会社 代表取締役社長 西田宏様、未来トラスト株式会社 代表取締役 CEO 四方田良紀様、遠山宏美様、株式会社パシフィックウェーブ代表取締役 田中啓介様、大陽日酸株式会社メディカル事業部 新 清様、三井住友海上火災保険株式会社 公務開発部長 福田和弘様、株式会社ツムラ代表取締役社長 加藤照和様、製品戦略本部本部長、理事 今田明人様、東レ株式会社 代表取締役副社長 阿部晃一様、橋本和司様、松田良夫様、曾根三郎様、ALSOK 総合警備保障株式会社 代表取締役社長 青山幸恭様、一般社団法人日本生活習慣病予防協会名誉会長 池田義雄様、一般社団法人 経済団体連合会 事務総長 久保田政一様、常務理事 藤原清明様、総務本部統括会員主幹 井ノ川正明様、東智樹様、公益社団法人 経済同友会様、日本商工会議所 専務理事 石田徹様、産業政策第一部長 山内清行様、総務部長 塩野裕裕、課長 新田大介様、一般社団法人 生命保険協会 副会長 佐々木豊成様、事務局次長兼総務部長 宇田川俊秀様、一般社団法人 日本建設業連合会 常務執行理事 原田健様、事務局長 佐沢英紀様、江川真紀子様、一般社団法人 不動産協会 専務理事 内田要様、事務局長 森川誠様、国立国際医療研究センター 理事長 國土典宏様、公益財団法人 日本対がん協会 会長 垣添忠生先生、公益財団法人 がん集学的治療研究財団 事務局長 金子正利様、目黒麻衣子様、公益財団法人 広島がんセミナー 理事長 田原榮一様、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN 業務執行理事 北野選也様、読売新聞東京本社 解説部長 山口博弥様、医療部長 館林牧子様、東京熊本県人会の皆様、東京都福祉保健局医療政策部 計画推進担当課 千葉清隆様、渡辺昌則様、同医療政策部 医療政策課 統括課長代理 小澤双幹様、一般社団法人情報サービス産業協会 常務理事 廣瀬毅様、一般社団法人コンピュータソフトウェア協会 理事・事務局長 原洋一様、日本製薬団体連合会様、一般社団法人 日本損害保険協会 副会長 牧野治郎様、塚本真之様、宇田川友順様、YKKap 顧問 小山田誠太郎様、TOTO 株式会社特販本部長 吉田伸典様、株式会社重岡 代表取締役社長重岡昌吾様、弁護士 高橋淳様、加藤恒也様、三好立様、堀信一様、中見理嘉様、岡山県極真空手道連盟代表 西田憲治様をはじめとする皆様、塚本恭史様、木村重明様、有路友一様、相澤直也様、岡山裕基様、高村僚様、国際医療福祉大学 医療福祉管理部 総務部 吉野里美様、株式会社 ストリーム様、株式会社 スマッシュ様、株式会社 グラムリンク様、東京ビッグサイト様、日本体育大学ボクシング部の皆様ほか、あえてここにお名前を掲載していませんが、第5回がん撲滅サミット開催にあたり、ご尽力いただきました皆様心より感謝申し上げます。引き続き第6回がん撲滅サミットをご支援いただけますと幸いです。

第5回がん撲滅サミット実行委員会一同

<2019年11月1日現在。敬称略・順不同>

※本大会で使用する楽曲は、JASRAC のご理解をいただいております。

～がん撲滅サミットは 『患者の権利 2019』を応援します！～

『患者の権利 2019』

患者の求めがあれば、

- (1) 治療経緯を記載した紹介状を速やかに発行すること
- (2) 画像データの開示
- (3) 手術後のがん組織の提供
- (4) がん拠点病院として、その患者の治療経緯のデータ保存
- (5) 紹介状発行後の継続治療の保証と治療拒否の撲滅

がん医療が患者のために変わることを祈っています。

すい臓がんサバイバー 高村 僚 氏 提唱

第6回 がん撲滅サミット®開催決定!

日米がん撲滅サミット2020

参加無料(要事前予約) <https://cancer-zero.com>

今、日本から米国に広がるがん撲滅への挑戦!
2025年

持ち運びのできる副作用のない

リーズナブルながん予防薬の開発を目指そう

人類とAIの総力戦で前進せよ日本! 米国!

THIS IS THE MOONSHOT PROJECT!!

2020年11月15日(日)

開演 13:00【開場12:30】

会場 東京ビッグサイト 国際会議場

主催 | 第6回がん撲滅サミット実行委員会

後援

厚生労働省、文部科学省、国土交通省、経済産業省、総務省、農林水産省、外務省
AMED国立研究開発法人 日本医療研究開発機構、東京都、公益社団法人 日本医師会
公益財団法人 がん研究会有明病院、公益財団法人 日本ホスピス・緩和ケア研究振興財団
一般社団法人 日本経済団体連合会、日本商工会議所、公益社団法人 経済同友会、日本製薬団体連合会
一般社団法人 日本建設業連合会、一般社団法人 不動産協会、一般社団法人 生命保険協会
一般社団法人 日本損害保険協会、一般社団法人 全国警備業協会、一般社団法人 情報サービス産業協会
一般社団法人 コンピュータソフトウェア協会、一般社団法人 Medical Excellence JAPAN
読売新聞社 (申請予定)